

P R A C Q

REFERENCE

MANUAL

Rev21JP

もくじ

1. はじめに

1.1. このマニュアルについて	4
1.2. PRACQのコンセプト	6
1.3. コントローラ設定	8
1.4. 再生設定	10

2. メインモード

2.1. メインモードについて	12
2.2. 基本操作	13
2.3. キーボード関連機能	17
2.4. トラック	20
2.5. ステップ数	22

3. その他のモード

3.1. プロパティモード	25
3.2. コマンドモード	29
3.3. スケールモード	33

4. シーケンスデータ詳細

4.1. ステッププロパティ	40
4.2. ロングノート	41
4.3. ステップステータス	42
4.4. ステップの長さ	47
4.5. ペーストフィルタ	50

5. 応用機能

5.1. ファンクションパッド	52
5.2. スナップショット	53

6. オプション設定

6.1. 外部キーボード	56
6.2. 汎用コントローラ	57
6.3. 外部シーケンサとの同期	58

1. はじめに

1.1. このマニュアルについて

1.2. PRACQのコンセプト

1.3. コントローラ設定

1.4. 再生設定

1.1. このマニュアルについて

PRACQによこそ！ 関心を持っていただきありがとうございます。

PRACQには2つのマニュアルがあります。

- **PRACQ GETTING STARTED MANUAL**（基本的なチュートリアル）
- **PRACQ REFERENCE MANUAL**（この文書）

まずはじめにGETTING STARTED MANUALを読んで、PRACQがどういうものかという雰囲気を感じてください。それからこのマニュアルに進んで詳しい内容を確認してください。

マニュアルはソフトウェアの更新とともに改訂されます。最新のソフトウェアとマニュアルは、www.pracq.comから無料で入手可能です。マニュアル管理の便宜上、対応するソフトウェアのバージョンはマニュアルには記載していません。

パッド操作

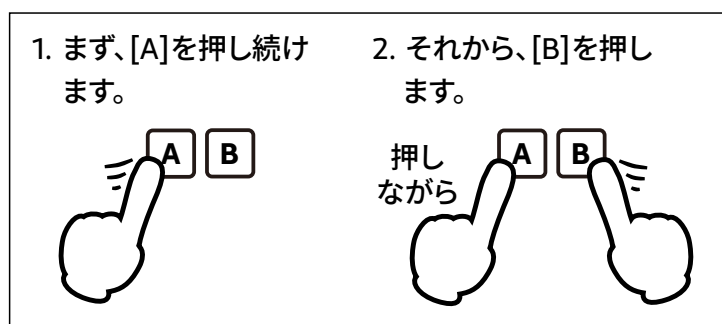
このマニュアルは、ほとんどがパッド操作についての説明になります。

特定のパッドは、パッド配置図上で、基本的にはアルファベットと数字で示されます。例を右に示します。文章中では角かっこに入れて[S1]や[K28]のようになります。さらに、数字の部分は省略されて[S]や[K]のようになることもあります。例えば[S]は、[S1]から[S32]のどれかひとつを表します。

PRACQの特徴である2本指操作については、以下のように示されます。

[A] + [B]

これは以下の操作を意味します。



パッド配置図の例

T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	
S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	PL
S9	S10	S11	S12	S13	S14	S15	S16	SF
S17	S18	S19	S20	S21	S22	S23	S24	LP
S25	S26	S27	S28	S29	S30	S31	S32	MD
K22	K23	K24	K25	K26	K27	K28	M1	F1
K15	K16	K17	K18	K19	K20	K21	M2	F2
K8	K9	K10	K11	K12	K13	K14	M3	F3
K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	M4	F4

注：パッド配置はモードに依存します。よってあるパッドの機能が、モードによって異なることもあります。

パッドは押されたときと離されたときに反応します。押す強さ（ベロシティ）は関係ありません。

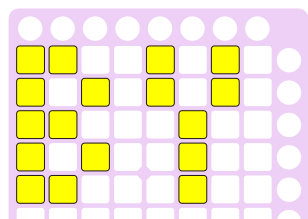
パッドの見た目は、以下のうちのどれかの状態になります。明るさの区別はありません。



赤、黄、緑、オフ（消灯）

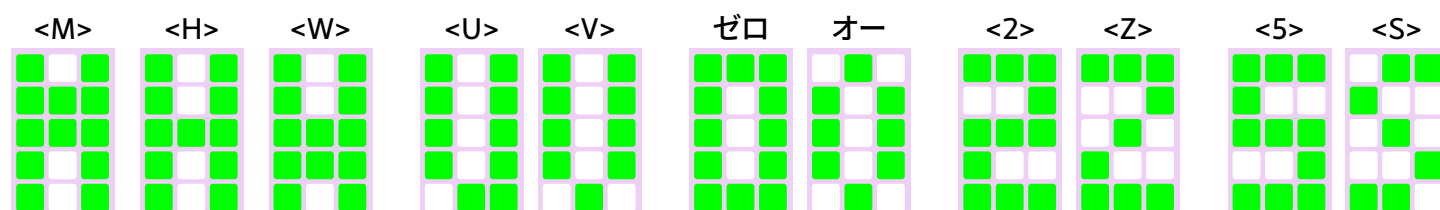
パッド上の文字表示

PRACQは、液晶ディスプレイなしで、状態についてどうにか伝えようとしています。

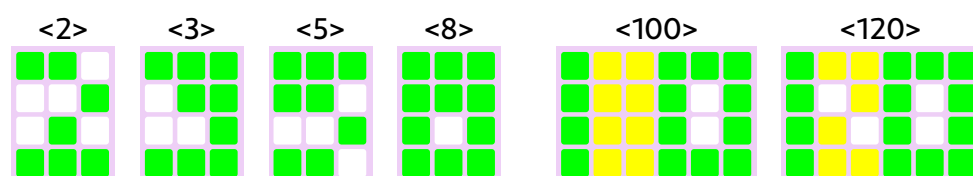


例えば、左の表示はふたつの文字「BY」を示します。これは文章中では、山かっこの中に
入れて<BY>のように表します。

混乱しそうな例を以下に示します。



小さいサイズの数字



連絡先

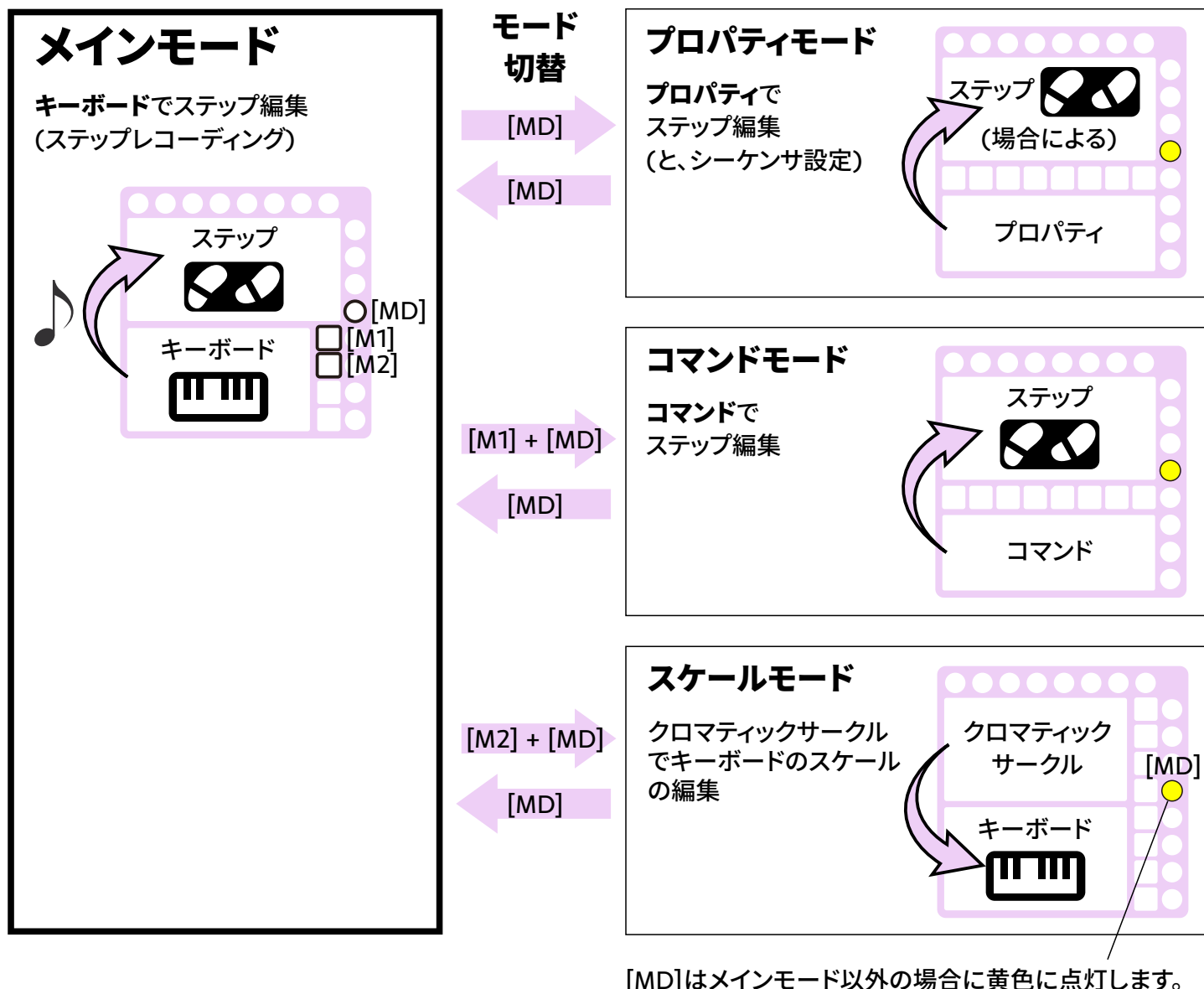
ホームページ: <http://www.pracq.com>

メール: info@pracq.com

1.2. PRACQのコンセプト

モード

PRACQにはいくつかのモードがあり、それらはそれぞれ独自のパッド配置となっています。
メインモードがもっともよく使われることになりますが、必要に応じてモードを切り替えることもできます。



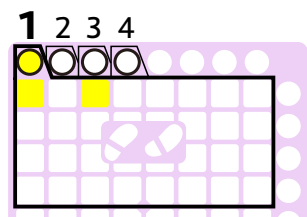
シーケンスデータ

PRACQは、シーケンスデータを以下の階層によって扱います。

それぞれの階層(ステップ、トラック、ソング)はそれぞれ独自のプロパティ(データ項目)を持ちます。

ソング トラックの集まり(シーケンスデータ全体)

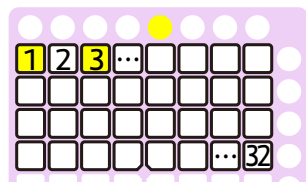
トラック (1-4) ステップの集まり



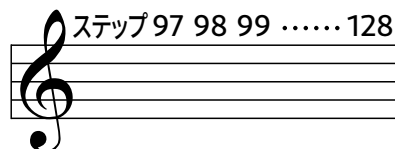
それぞれのトラックは
独立して再生されます。



ステップ (1-32) ノート(音符)を置く場所



ブロックを切り替えることで、最大128ステップまで使用できます。
詳細は「2.5. ステップ数」の章を参照してください。



1.3. コントローラ設定

PRACQの操作には、グリッドMIDIコントローラを使用します。また、一部の操作はコンピュータキーボードやMIDIキーボードで行うこともできます。

グリッドMIDIコントローラ

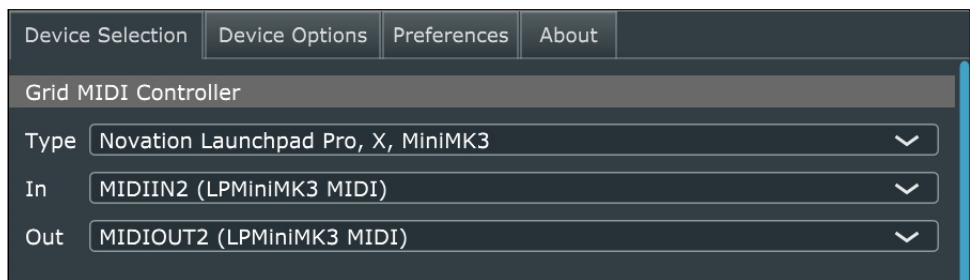
対応コントローラ

- Novation Launchpad シリーズ
- Akai Professional APC mini

また、要件を満たせば他のコントローラでも、PRACQのコントローラとして使用することができます。詳細は「6.2. 汎用コントローラ」の章を参照してください。

設定

1. メインウィンドウの「Settings」ボタンをクリックします。
2. 使用するコントローラにあてはまるタイプを、Grid MIDI Controller Typeメニューから選択します。
3. 使用するコントローラのMIDIデバイスを、Grid MIDI Controller In と Outメニューから選択します。普通は両方のメニューで同じデバイスを選択することになります。



Novation Launchpad X, MiniMK3 ユーザーのかたへ

- 最初に、「Novation Components」で最新のファームウェアにアップデートします。
- これらのデバイスには、2つの「IN」と2つの「OUT」があります。それぞれ2番目のものを選択します。

AKAI Professional APC mini ユーザーのかたへ

一番下の8つの丸パッドは、Launchpadにおける一番上の丸パッドとして機能します。
一番下の8つの丸パッドは赤でのみ、右端の丸パッドは緑でのみ点灯するようです。よって、色ではなく点灯しているかどうかで状況を判断してください。

コンピュータ キーボード

コンピュータキーボードを使うのに特別な設定は必要ありません。ただ、コンピュータキーボードを使うときは、PRACQのアプリケーションウィンドウがアクティブになっていることを確認してください。
基本的な使用方法は、GETTING STARTED MANUALを参照してください。

利用可能なキーの一覧

32キー	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, Q, W, E, R, T, Y, U, I, A, S, D, F, G, H, J, K, Z, X, C, V, B, N, M, ", " 上, 下, スペース
32キーの切り替え	
ファンクションパッド	9, O, L, ".", "
上パッド(トラック、ブロック)	F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8
再生	リターン
シフト	Del
ループ	Tab
ステップパッドの代替	左(移動なし), 右(前進)
コントローラスクリーンのクリック	Ctrl, Alt (Mac: Command, Option)

日本語(またはUS)配列以外のキーボードをご利用のかたへ

32キー(2～4行目)とファンクションパッドの割り当ては、「Settings -> Device Options -> Computer Keyboard Assignments」で変更することができます。

MIDIキーボード

MIDIキーボードはキーボードパッドの代わりになります。詳細は「6.1. 外部キーボード」の章を参照してください。

1.4. 再生設定

PRACQからのMIDIメッセージを受信して音を出す音源を準備します。

DAWまたはソフトシンセ

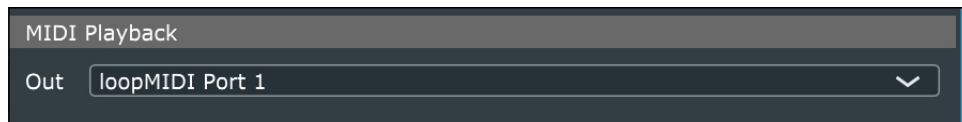
DAWかソフトシンセをお持ちであれば、仮想MIDIケーブルでPRACQアプリケーションと接続してください。仮想ケーブルについては、ネット上の情報を参考にしてください。例えば以下のようなものがあります。

Windows LoopBe1 または LoopMIDI (無料)

Mac IAC Driver (macOSに内蔵)

設定

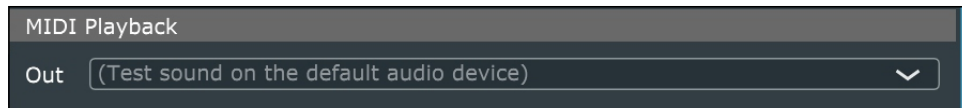
1. メインウィンドウの「Settings」ボタンをクリックします。
2. 使用する仮想MIDIケーブルを、MIDI Playbackメニューから選択します。



3. DAW・ソフトシンセ側では、このMIDIデバイスを入力として設定します。

テストサウンド

MIDI Playbackメニューで何も選択しなかった場合は、テストサウンドがデフォルトのオーディオデバイスから再生されます。



2. メインモード

2.1. メインモードについて

2.2. 基本操作

2.3. キーボード関連機能

2.4. トラック

2.5. ステップ数

2.1. メインモードについて

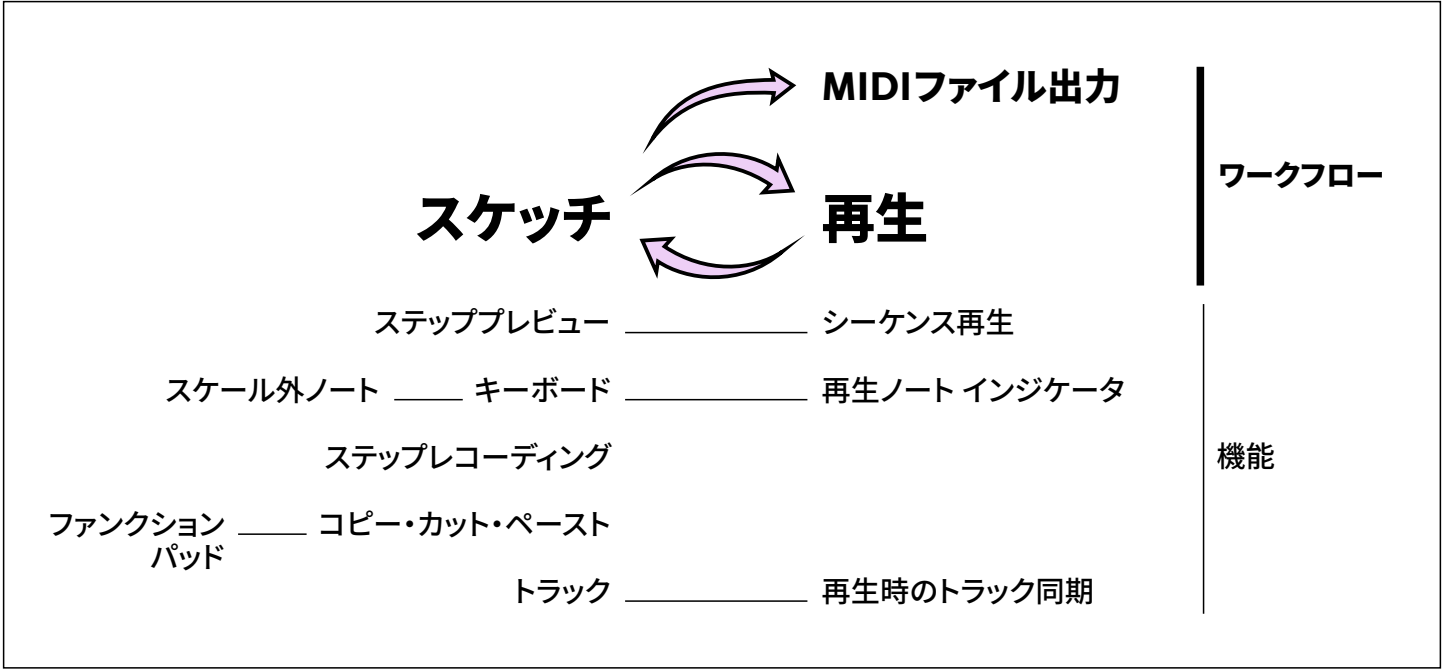
概要

PRACQは起動直後はメインモードになります。このモードは、スケッチと再生を繰り返していくというPRACQの基本ワークフローのために設計されており、頻繁に使用されることになります。

ちなみに、BPM (テンポ) などの設定は、このメインモードではなくプロパティモードで行います。詳細は「3.1. プロパティモード」の章を参照してください。

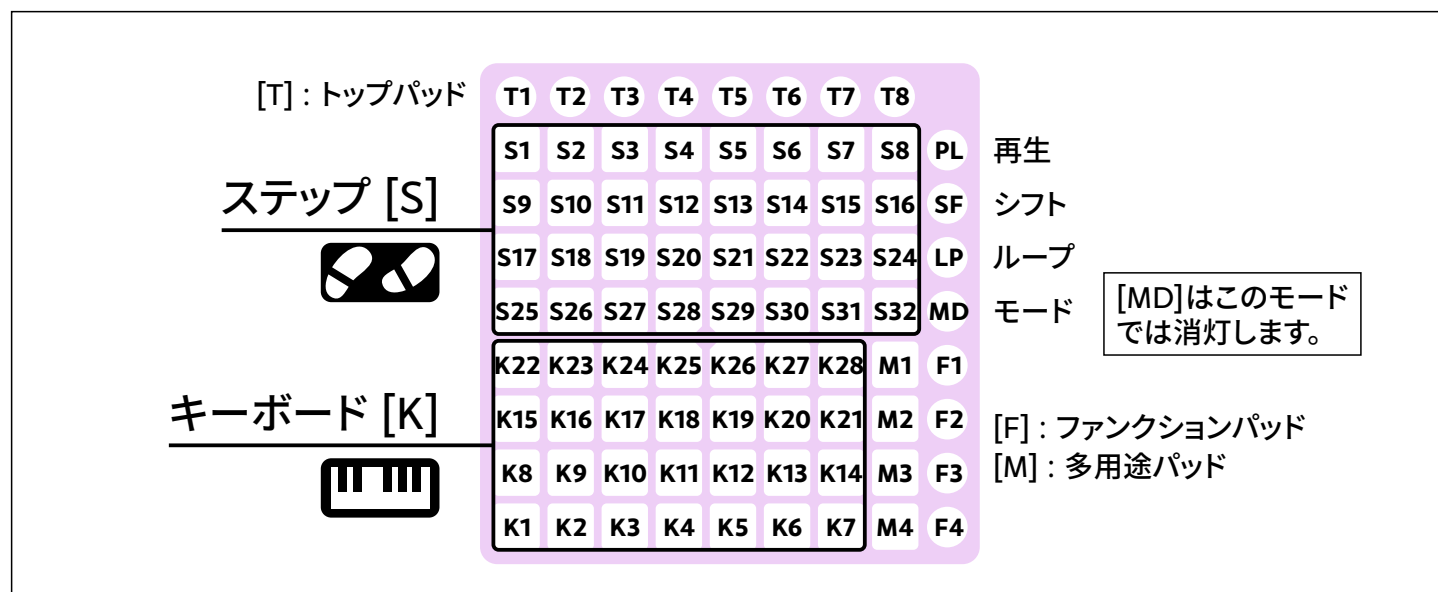
メインモードでのワークフローと機能

以下に挙げた各機能については、以降の章で説明します。



2.2. 基本操作

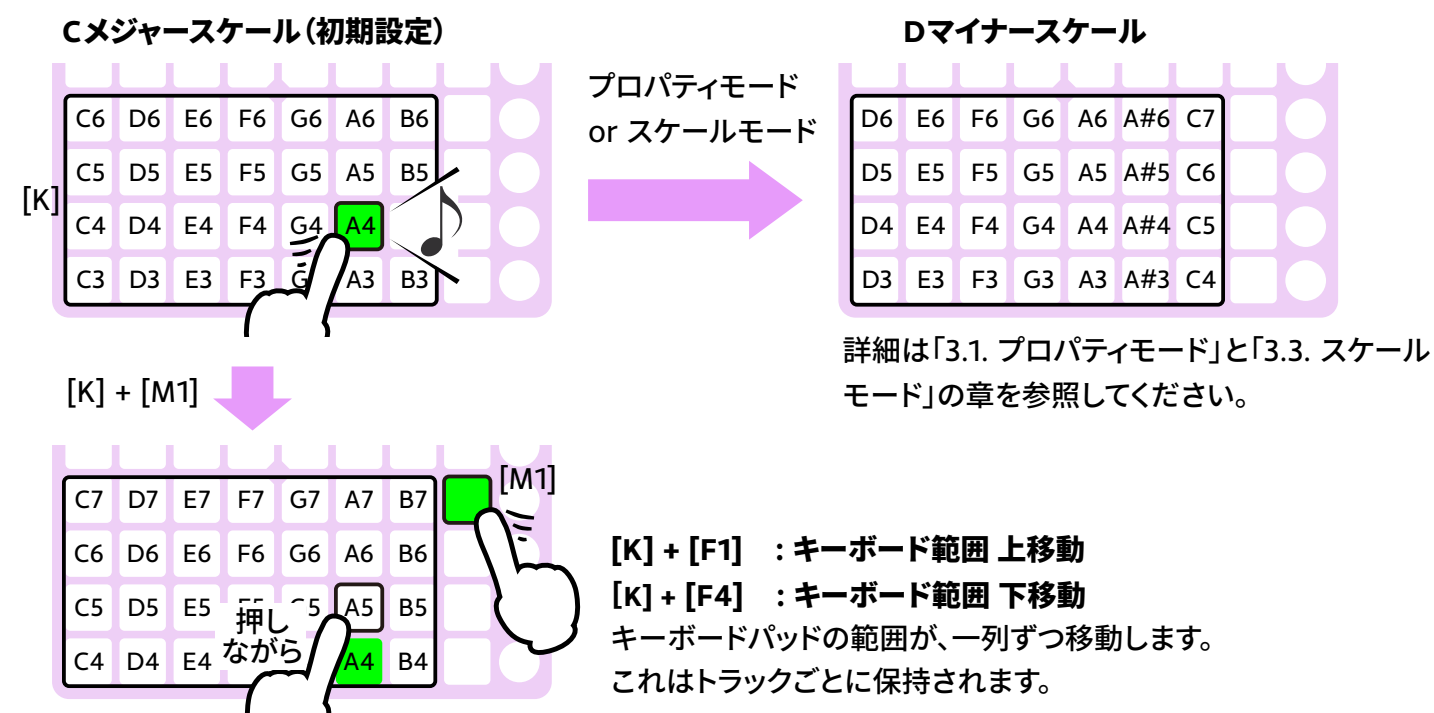
パッド配置(メインモード)



キーボード

[K] : キーボードの演奏

これらは28鍵キーボードになります。初期設定では、Cメジャースケール上にあるノートだけが、キーボードパッドに現れます。このスケールは、スケールモードかプロパティモードから変更することができます。



ステップレコーディング

ステップはステップパッド[S] ([S1]～[S32]) 上に現れます。各ステップにはそれぞれ最大6つのノートを追加することができます。この節ではステップにおけるノートの編集方法について説明します。

[S] : ステッププレビュー

そのステップにノートが配置されていれば、それが再生され、対応するキーボードパッドが黄色く点灯します。

[S] + [K] : ステップ内にノートを追加 / ステップ内からノートを削除

最初に、編集したい[S]を選択します。[S]はノートを配置する準備ができていないことを示すために点滅します。この時点で、もしステップ内にノートがあれば、キーボードパッド上で黄色く点灯します。

次に、編集したい[K]を選択します。[K]がもし消灯していれば、点灯してこのノートが[S]に追加されます。もし点灯していれば、消灯してこのノートは[S]から削除されます。

[S]を離すと、もし[S]にひとつでもノートが配置されていれば黄色く点灯します。そうでなければ消灯します。

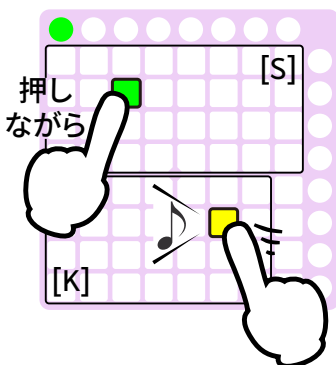
[S] + [SF] : ステップホールド

このようにして、これらを離すと、[S]は押さえられたままの状態になります。よってすべての指を使ってノートを編集できるようになります。あるステップがこの状態である場合、[SF]は緑に点灯します。ステップホールドを解除するには、[S]のどれかか[SF]を押します。

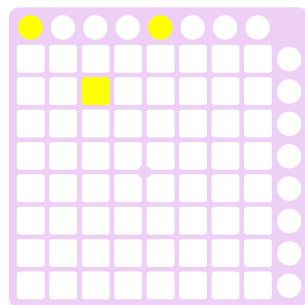
[K] + [S] : ステップ内にノートを追加

最初に、編集したい[K]を選択します。次に、編集したい[S]を選択します。もし[S]に[K]のノートが配置されていないければ、そのノートが[S]に追加されます。(もし[S]に[K]のノートがすでに配置されていれば、何も変わりません。)

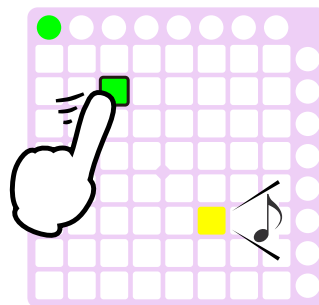
1. ノートを追加



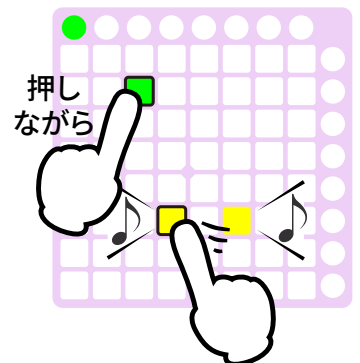
2. 両方とも離します。



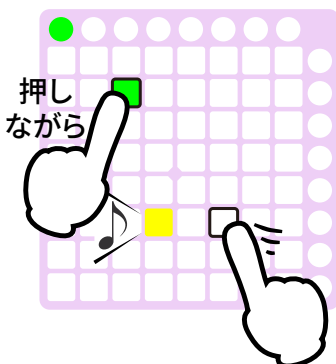
3. ステッププレビュー



4. 他のノートを追加。



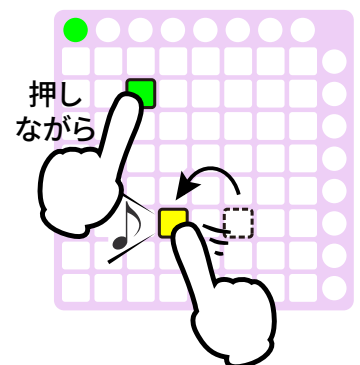
5. ノートを削除



オプション設定 : ステップあたり1ノートに限定

「Settings -> Preferences -> Step Recording -> Limit to one Note per Step.」のチェックを入れます。そうすると、「[S] + [K]」を使って2番目のノートを追加しようとしたときに、元の(1番目の)ノートが2番目のノートに置き換えられます。この場合でも、ステップホールドか「[K] + [S]」を使うことで、2つ以上のノートを配置することができます。

4'. 追加ではなく置き換え



ステップの選択

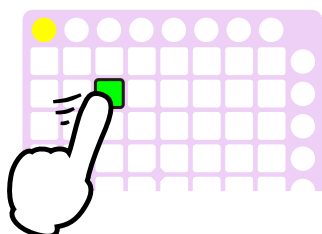
[S] + [S] : ステップの選択

ふたつのパッドの間のパッドは選択され、緑に点灯します。選択されたステップは、その後の操作（「ループ範囲の作成」など。後で説明します。）の対象となります。

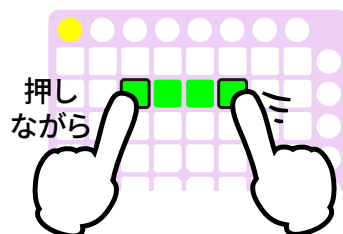
[S]のどれかをもう一度押すと、選択はリセットされます。

ひとつのステップだけを選択するには：「[S] + [M1]」または「[S](押し続けながら) そのまま次の操作に進む」

1. 最初の[S]を押します。



2. 最後の[S]を押します。



3. 両方とも離します。



4. 次の操作に進みます。

再生

[PL] : シーケンス再生

再生位置がステップからステップへと順番に前進します。再生位置のあるステップにノートが配置されていれば、それが再生されて、対応するキーボードパッドが赤く点灯します。

再生中は[PL]が赤く点灯します。[PL]をもう一度押すと、再生は停止します。

注：初期設定では、シーケンス再生中はステッププレビューが無効の設定になっています。ただし「Preferences -> General -> Allow Step Preview 〜」で有効にすることもできます。

再生位置

再生中は、現在再生されているステップが、再生位置として赤く点灯します。再生位置が最後のステップに達した場合は、最初のステップに戻って再生を続けます。

再生を停止すると、再生位置は最後に再生されたステップにとどまります。次の再生は、再生位置であるステップの頭から開始されます。

[SF]（停止中）：再生位置の表示

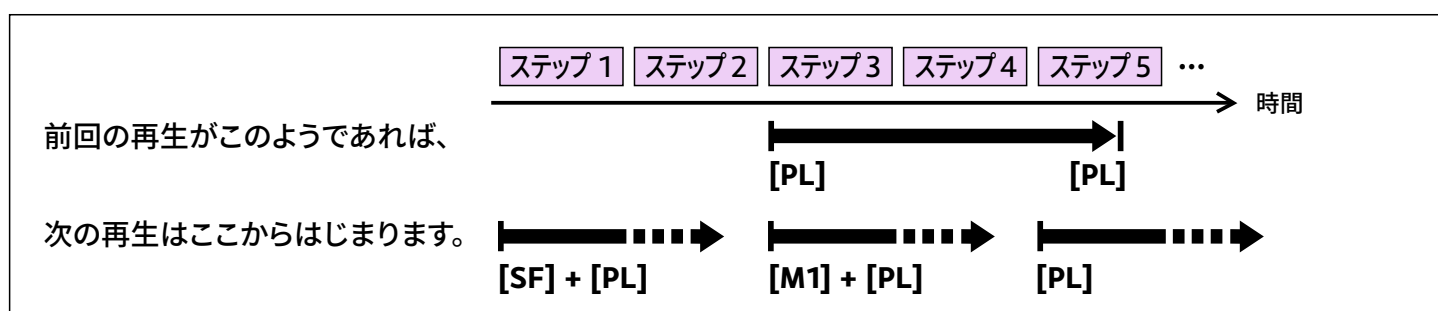
再生位置であるステップが赤く点灯します。次の再生はこのステップから開始されます。

[SF] + [S]（再生中でも停止中でも）：再生位置の移動

再生位置（赤く点灯）が押された[S]に移動します。

[SF] + [PL]（再生中でも停止中でも）：最初のステップからシーケンス再生

[M1] + [PL]（停止中）：直近の再生が開始された位置からシーケンス再生



ループ範囲

選択ステップ -> [LP] : ループ範囲の設定

選択ステップがあれば、それがループ範囲として設定されます。そうすることで、再生はこの範囲内をループします。ループ範囲が設定されているとき、[LP]は黄色く点灯します。

[ST] + [LP(黄)] : ループ範囲の表示

[LP(黄)]はループ範囲が設定されていることを示します。この場合、ループ範囲が緑で表示されます。

[LP] (選択ステップなしで) : ループ範囲のリセット

ステップのコピー・カット・ペースト(クリップボード)

選択ステップ -> [F4] : コピー

選択ステップ -> [F4] (ダブルタップ) : カット

選択ステップのシーケンスデータがクリップボードにコピーされます。「カット」を実行した場合は、選択ステップの元のデータは削除されます。

[F4] + [S] (そして[F4]を先に離す) : ペースト

クリップボード内のシーケンスデータが、押されている[S]から始まる位置にペースト(上書き)されます。

注: 操作の前に、ステップが選択されていないことを確認してください。そうでないと、「コピー」になってしまいます。

[F] : ファンクションパッド

実際には、この「クリップボード」機能は「ファンクションパッド」の一部になります。ファンクションパッドについての詳細は「5.1. ファンクションパッド」の章を参照してください。

MIDIファイル出力

[M1] + [F1] : MIDIファイル出力 <XP>

現在のトラックのシーケンスデータが、「Pracq_yymmdd_hhmmss.mid」のような名前のMIDIファイルとして保存されます。

初期設定では、MIDIファイルはデスクトップフォルダに保存されますが、「Settings -> Preferences -> MIDI File Export」でフォルダを変更することもできます。

プログラムの終了

[M1] + [F4] : プログラムの終了 <BY>

プログラムウィンドウの「X」ボタンや「Exit」ボタンのかわりになります。

レジューム(再開)

終了時のシーケンスデータを、次回PRACQを起動した際に自動で復元したい場合は、「Settings -> Preferences -> General -> Resuming」のチェックボックスにチェックを入れます。

また、プロパティモードから手動で復元することもできます。詳細は「3.1. プロパティモード」の章の「[P1] : ソングプロパティ」の項を参照してください。

2.3. キーボード関連機能

概要

PRACQのキーボードはスケールノートから構成されており、そのキーボードを補完するためのいくつかの機能があります。

オクターブの表示

[K] + [SF] : オクターブの表示

例えば、G4のノートとなる[K]を押した場合、G3とG5のノートとなるパッドも同時に緑に点灯します。これは、クロマチックスケールなどが選択されている場合に便利かもしれません。



再生ノート インジケータ

再生中は、現在の再生ノートに応じて以下のパッドが点灯します。

パッド

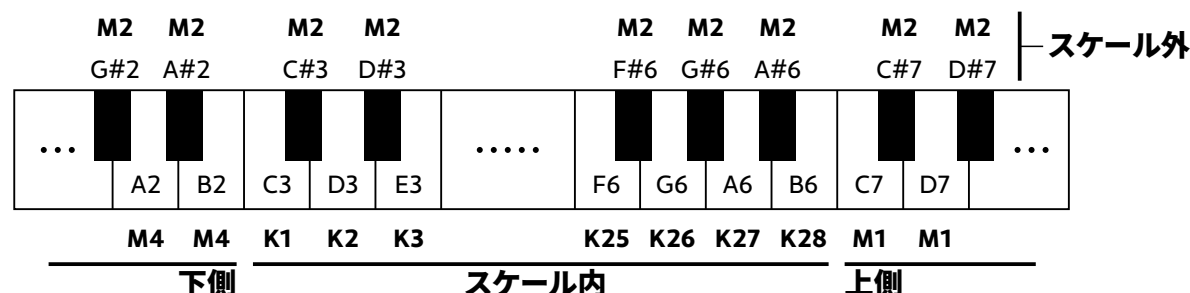


点灯色

- 黄 ステッププレビュー中のノート
- 赤 シーケンス再生中のノート

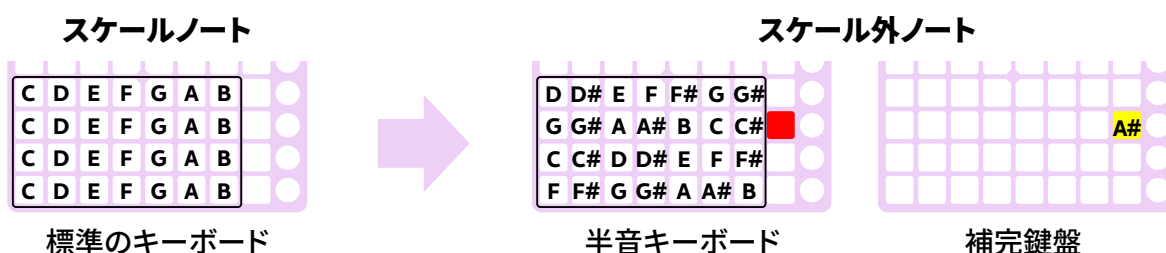
[M3]はロングノート (TIEステータス) またはミュート (MUTEステータス) に割り当てられています。詳細は「4.3. ステップステータス」の章を参照してください。

例えば、Cメジャースケールがキーボードのスケールとして選択されている場合、以下のパッドが点灯します。



スケール外ノートのあつかい

スケールノートは標準のキーボードパッドから利用できますが、スケール外ノートについては以下の方法で利用することができます。



半音キーボード

[K] + [M2] : 半音キーボードを有効化

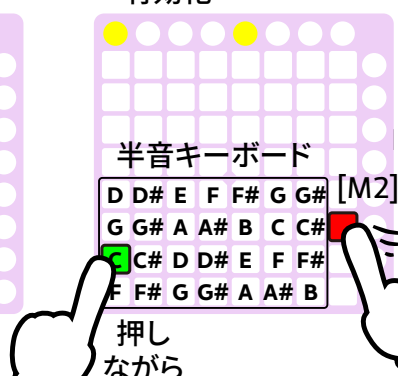
[M2(赤)] : 半音キーボードを無効化

キーボードパッドは一時的に、押されている[K]のノート位置が保持された状態で、半音(クロマチック)の配列になります。半音キーボードが有効な時には、[M2]は赤く点灯します。

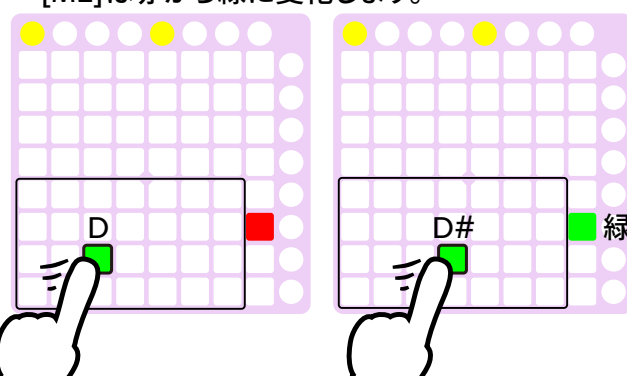
1. 初期状態



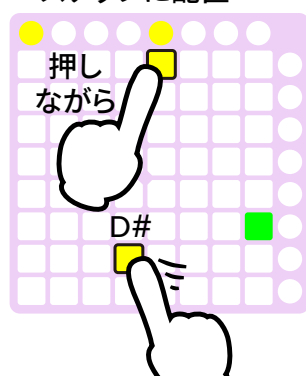
2. 半音キーボードを有効化



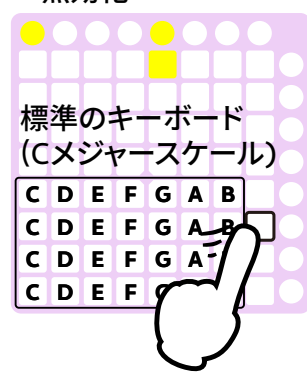
3. スケール外ノートが演奏されている間、
[M2]は赤から緑に変化します。



4. スケール外ノートを
ステップに配置



5. 半音キーボードを無効化



なお半音キーボードは、
キーボードパッドの状態
が変化する時に自動的に
無効化されます(キー
ボード範囲の移動など)。

補完鍵盤

[M2] : スケール外ノートの演奏

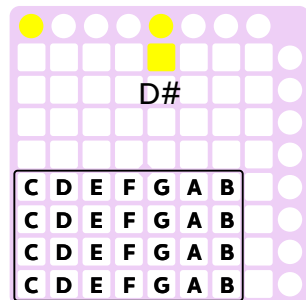
ステッププレビューで、スケール外ノートが再生された場合、そのノートは[M2]に自動的に格納されます。

その結果、[M2]はこのスケール外ノートを表す特別なキーボードパッド(補完鍵盤)として機能するようになります。

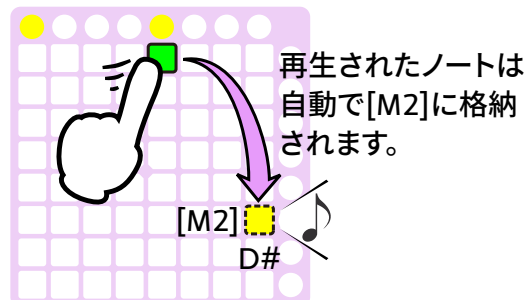
他のスケール外ノートが再生された場合、[M2]のノートは更新されます。そうでなければ、[M2]のノートはそのままそこにとどまります。

(前ページから続く)

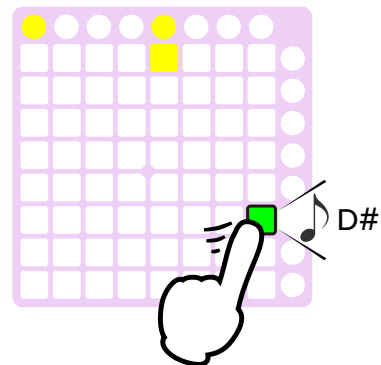
6. スケール外ノートがすでにステップにあります。



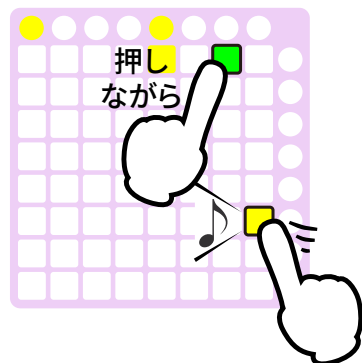
7. このステップがプレビューされると、[M2]は黄色に点灯し…



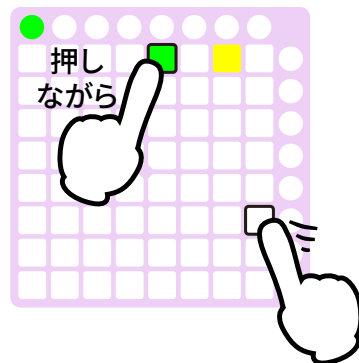
8. [M2]はキーボードパッドのひとつになります。



9. スケール外ノートをステップに追加。



10. スケール外ノートをステップから削除。



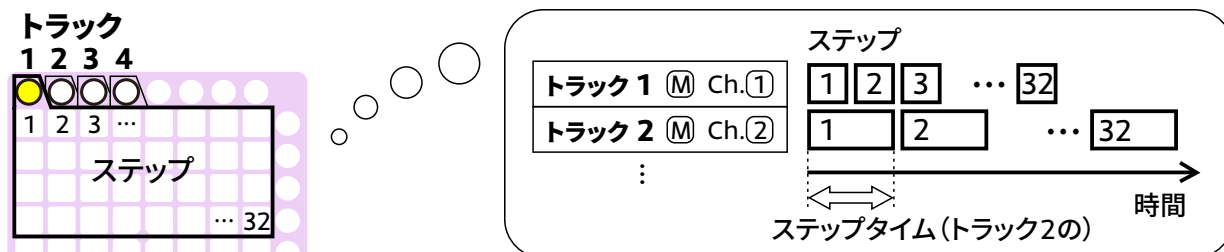
注:

- ステッププレビューで、2つ以上のスケール外ノートが同時に再生された場合、一番高いノートだけが[M2]に格納されます。
- ステップに2つ以上のスケール外ノートが含まれる場合、「[S] + [M2]」を使ってノートを削除することはできません。(代わりに半音キーボードを使ってください。)

2.4. トラック

概要

PRACQには4つのトラックがあります。それぞれ32（または最大128）ステップからなり、個別に再生されます。例えばメロディーとベースラインを同時に再生させることができます。



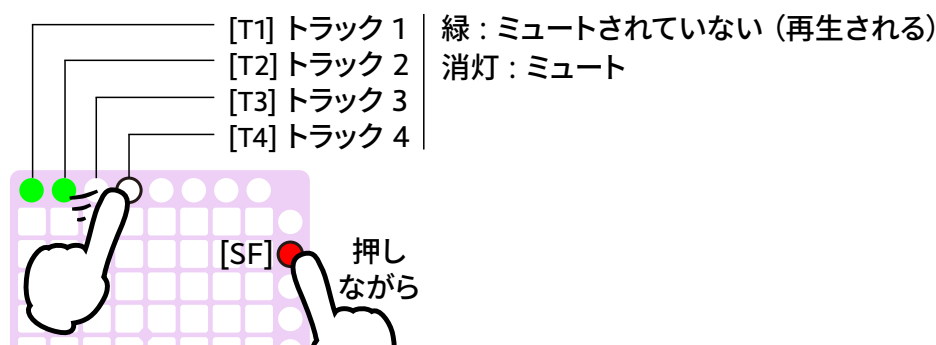
操作

[T1] - [T4] : トラック選択

ステップパッドに表示されるのは一度にひとつのトラックだけとなるため、最初に編集するトラックを選択する必要があります。[T1]～[T4]はそれぞれトラック1～4を表しています。選択されているトラックは黄色に点灯します。

[SF] : トラックミュート(消音)状態の表示

[SF] + [T] : トラックミュート(トグル)



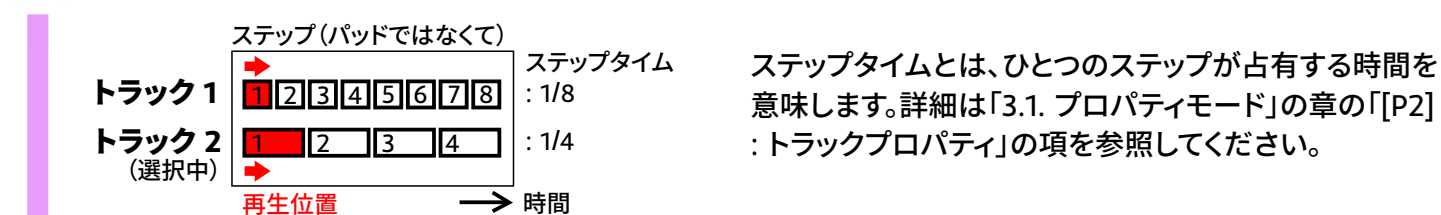
設定

トラックに関する設定（ステップタイム、MIDIチャンネルなど）は、プロパティモードで行います。詳細は「3.1. プロパティモード」の章の「[P2] : トラックプロパティ」の項を参照してください。

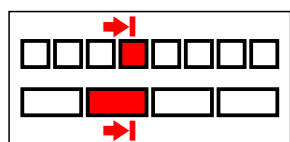
シーケンス再生でのトラック同期

各トラックはそれぞれ再生位置を持っていて、同時に個別に再生されます。場合によっては、それらの再生位置の同期がずれることがあります。以下にいくつか例を示します。

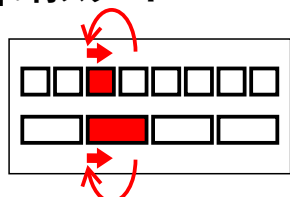
[PL] : シーケンス再生スタート



[PL] : ストップ (一時停止)



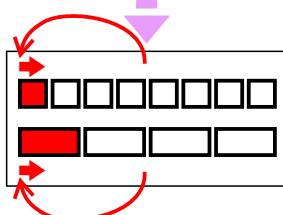
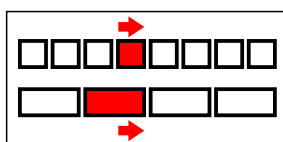
[PL] : 再スタート



トラック同期は保持

現在のステップの先頭に移動します。(選択されているトラックが基準)

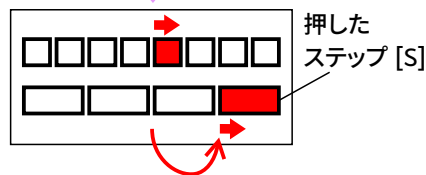
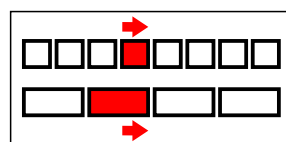
[SF] + [PL] : 巻戻し



トラック同期は保持

各トラックの先頭に移動します。

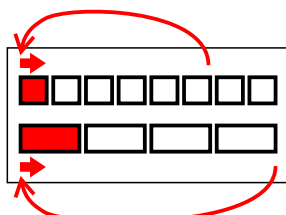
[SF] + [S] : 再生位置の移動



トラック同期は保持されない

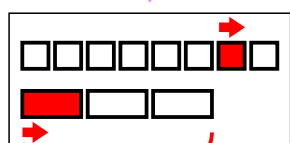
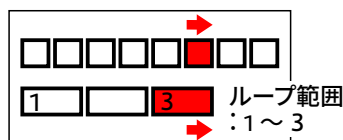
押したステップ [S] に移動します。(選択中のトラックだけに適用)

[SF] + [PL] : 巻戻し



トラック同期は再び保持

そして、各トラックはそれぞれループ範囲を持っています。



トラック同期は保持されない

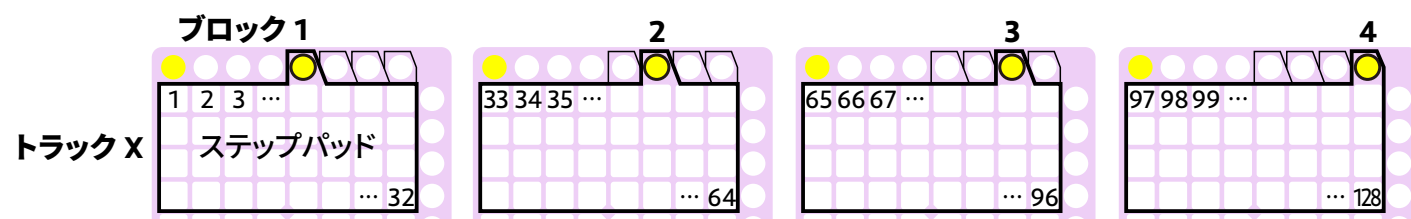
2.5. ステップ数

概要

PRACQは32パッドをステップパッドとして使用し、初期状態では各トラックは32ステップで構成されています。しかし必要に応じて、ステップ数をトラックあたり64、96、128ステップに拡張することもできます。

ブロック

32ステップで「ブロック」を構成し、ステップはブロック単位で切り替えられます。初期状態ではブロック1（つまり、ステップ1～32）だけが使用できます。しかし、トラック毎にブロック数を変更することもできます。



操作

ブロック数の設定

プロパティモードを用いて、以下の手順で行います。

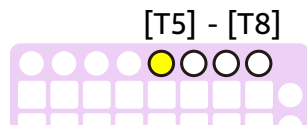
(プロパティモードの詳細については、「3.1. プロパティモード」の章を参照してください。)

1. [MD]を押してプロパティモードに入ります。
2. [P2]を押します。
3. [P5]を押します。
4. トラックを選択します。
5. Up/Downパッドを押して、ブロック数を変更します(1～4)。
「2」を設定した場合、ブロック1と2が使用できます。
6. [MD]をもう一度押してプロパティモードを抜けます。

ブロックの切り替え

[T5] - [T8] : ブロック選択

ステップパッドに表示されるのは一度にひとつのブロックだけとなるため、最初に編集するブロックを選択する必要があります。[T5]～[T8]はそれぞれブロック1～4を表しています。選択されているブロックは黄色に点灯します。
(使用できるブロックは、前述の設定内容によります。)



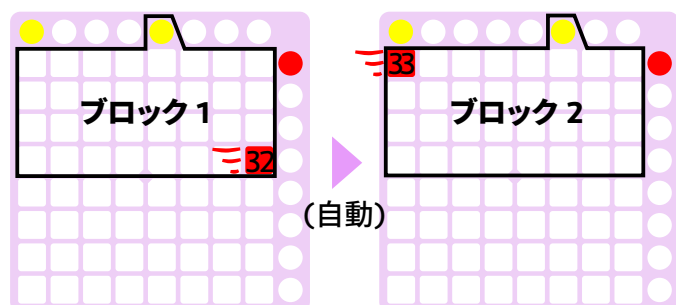
ブロックをまたいでのステップ選択

例えば、ステップ17 (ブロック1中) から56 (ブロック2中) を選択する場合…

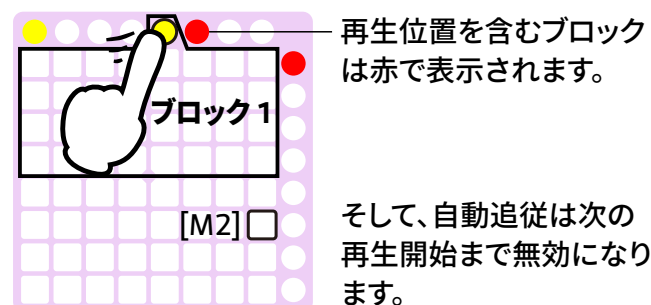
1. [T5] (ブロック1) を押し
ます。
2. [S17] (ステップ17) を押し
します。
押し
ながら
3. [T5] を離します。
押し
ながら
4. [T6] (ブロック2) を押し
ます。
押し
ながら
5. [S17] を離します。
押し
ながら
6. [S24] (ステップ56) を押し
します。
押し
ながら
[S24]
7. [T6] を離します。
押し
ながら
8. [S24] を離します。

再生位置

再生中は、ブロック表示は自動で再生位置に追従します。



しかし、表示されるブロックは手動で切り替えることもできます。



[M2] + [PL] (再生中): 自動追従の有効化

自動追従が無効の場合、再び有効となり、再生を続けます。

[M2] + [PL] (停止中): 自動追従が無効の状態ではシーケンス再生

3. その他のモード

3.1. プロパティモード

3.2. コマンドモード

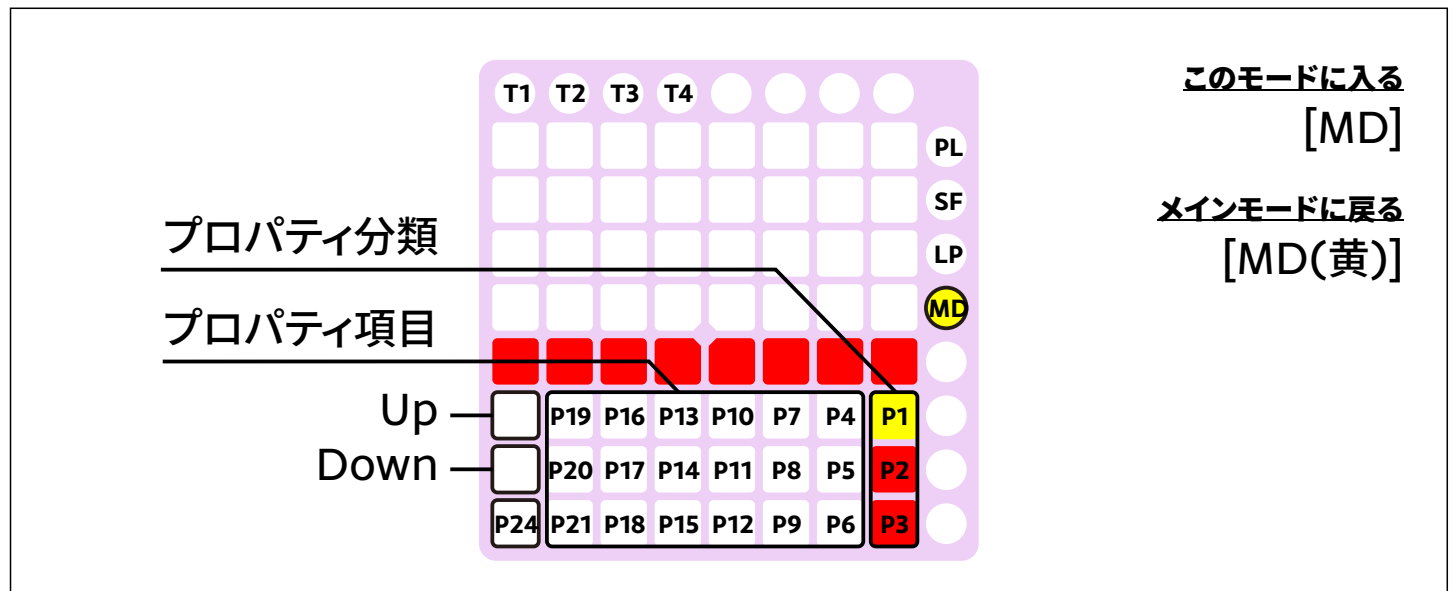
3.3. スケールモード

3.1. プロパティモード

このモードで何ができる？

- ソング/トラックプロパティで、シーケンサの設定
- ステッププロパティで、ステップ(シーケンスデータ)の編集

パッド配置



プロパティ項目リスト

最初に[P1]～[P3]の中から分類を選択して、それから項目を選択してください。

[P1] : ソングプロパティ (一般設定)

[P4] : BPM (テンポ) <BP>

設定値 : 1 - 399

[P5] : キーボードパッド上のスケール <SC>

設定値 : スケール名 (Chromatic <CR>, Major <MJ>, Minor <MN>, など)

スケールを編集したい場合は、このモードではなく、スケールモードを使ってください。詳細は「3.3. スケールモード」を参照してください。

[P6] : キーボードパッド上のルート(主音) <RT>

設定値 : C <C>, C# <C+>, D <D>, D# <D+>, ... , B

[P7] : ステップオフセット <SO>

設定値 : 同期用MIDIクロック出力のオフセット, 0 - 127

詳細は「6.3. 外部シーケンサとの同期」の章を参照してください。

シーケンスデータ初期化

最初に項目 ([P16] または [P17]) を選択してから、[P24] を押して実行します。




[P16] : シーケンスデータをクリア <CL>

[P17] : レジューム (再開) <RM> (前回終了時のシーケンスデータを復元)

[P2] : トラックプロパティ (トラック設定)

最初に対象のトラック ([T1] - [T4]) を選択してから、以下の項目を設定してください。

[P4] : ステップタイムのベース <ST>

設定値	1	2	4	8	16	32	t1, t2, t4, ...
ひとつの ステップの 長さ							3連符 (次ページを参照)

各ステップの長さは、この項目で設定されます。

初期状態では、あるトラックの各ステップは同じ長さになりますが、各ステップは別の方法でそれぞれ独自の長さを持つこともできます。詳細は「4.2. ロングノート」と「4.4. ステップの長さ」の章を参照してください。

[P5] : ブロック数 <BL>

設定値 : 1 - 4

詳細は「2.5. ステップ数」の章を参照してください。

[P7] : MIDIチャンネル <CH>

設定値 : 1 - 16 [MIDI データ]

[P8] : ボリューム <VO>

設定値 : 0 - 127 [MIDI データ]

注: 正確には、この項目はトラックにではなくMIDIチャンネルに関連しています。

[P9] : プログラムチェンジ <PG>

設定値 : 0 - 127 [MIDI データ]

注: 正確には、この項目はトラックにではなくMIDIチャンネルに関連しています。

[P10] : スウィング値 <SW>

設定値 : -100 - 100 [%]

初期状態では、0以上に設定すると、奇数ステップは長くなり、偶数ステップは短くなります。詳細は「4.4. ステップの長さ」の章を参照してください。

[P3] : ステッププロパティ (シーケンスデータ)

ステッププロパティに関しては、詳細は「4. シーケンスデータ詳細」の章を参照してください。

[P4] : SKIPステータス <SK>

設定色 : オフ(SKIP), 黄/緑 (SKIP以外)

[P5] : MUTE/TIEステータス <MT>

設定色 : 緑(MUTE), 黄(TIE), オフ (ONまたはOFF)

[P7]: ノートナンバー <NT>

設定値: 0 - 127 [MIDI データ] または「なし」

注: ステップに2つ以上のノートが含まれている場合、このプロパティは使用できません。

[P8]: ベロシティ <VL>

設定レベル: 0 - 3 (31, 63, 95, 127 [MIDI データ])

[P10]: スウィング応答 <SW>

設定色: 黄(長くする), 緑(短くする), オフ(通常)

通常、この項目は変更する必要はありません。

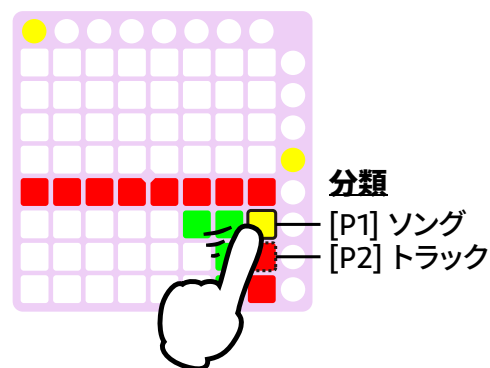
[P12]: ゲートタイム(スタッカー) <GT>

設定レベル: 0 - 3 (25, 50, 75, 100 [%])

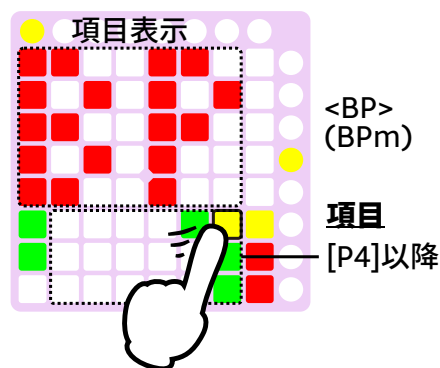
操作

ソング/トラックプロパティ

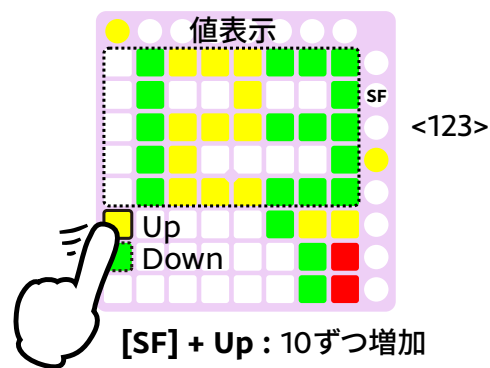
1. プロパティの分類を選択。



2. プロパティの項目を選択。



3. 設定値を変更。

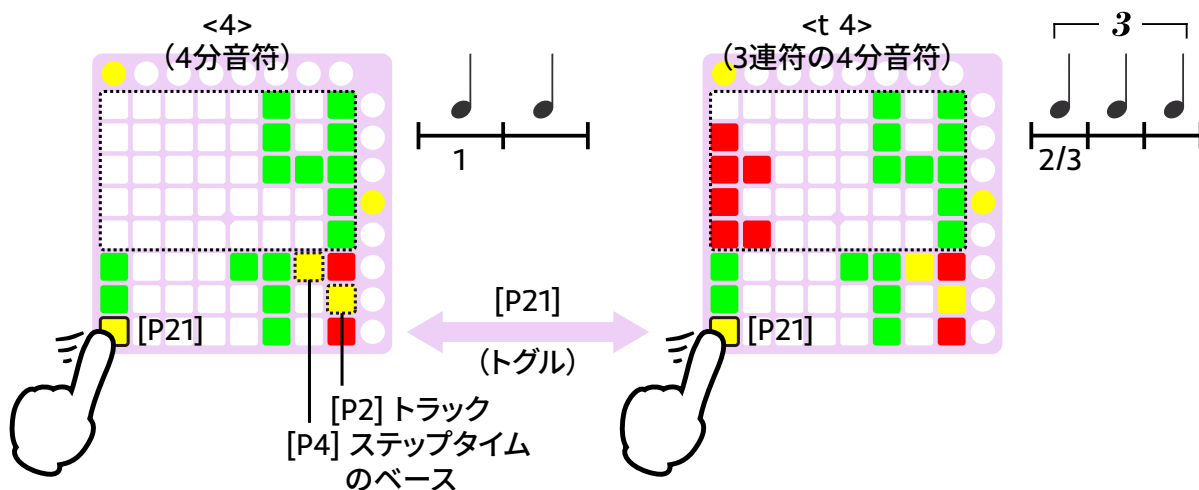


タップテンポ (ソングプロパティ - [P4]: BPM (テンポ))

[P24]はタップテンポ機能としてはたります。

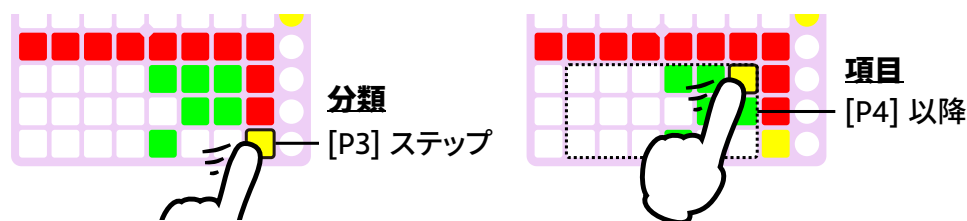
3連符 (トラックプロパティ - [P4]: ステップタイムのベース)

[P24]でステップサイズは2/3 (3連符) になります。



ステッププロパティ

最初に分類 ([P3]) とそれぞれの項目 ([P4]以降) を選択します。

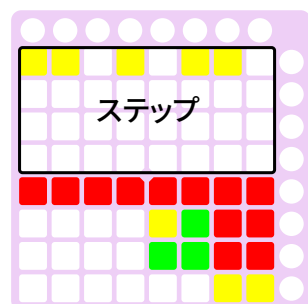


各ステッププロパティは、数値・レベル・色のいずれかで設定します。

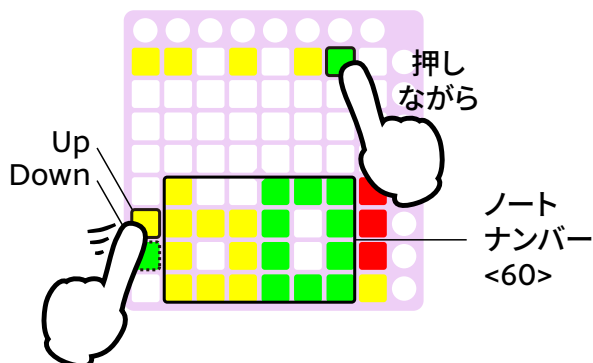
- 数値による設定

[P7] : ノートナンバー

1. ステップが表示されます。



2. ステップを選択して、値を変更します。

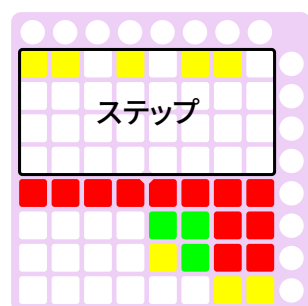


注:
ステップにノートナンバーがない
(OFFステータスである) 場合は、
「__」が表示され、値を変更するこ
とはできません。

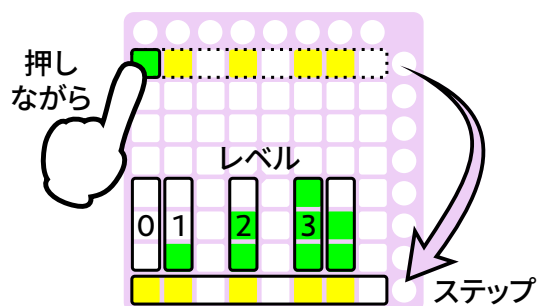
- レベルによる設定

[P8] : ベロシティ / [P12] : ゲートタイム(スタック)

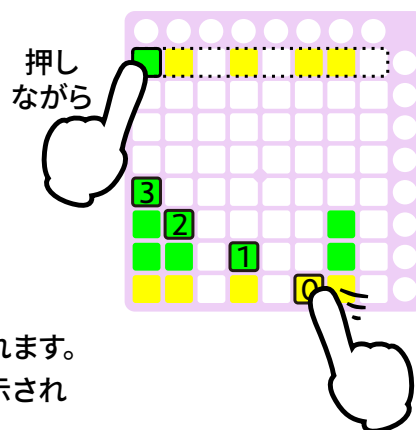
1. ステップが表示されます。



2. ステップを選択します。



3. レベルを変更します。



選択したステップを含む列が一番下に表示されます。
さらに、ステップのレベルが上に示すように表示され
ます。

- 色による設定

[P4] : SKIPステータス / [P5] : MUTE/TIEステータス

詳細は「4.3. ステップステータス」の章を参照してください。

[P10] : スウィング応答

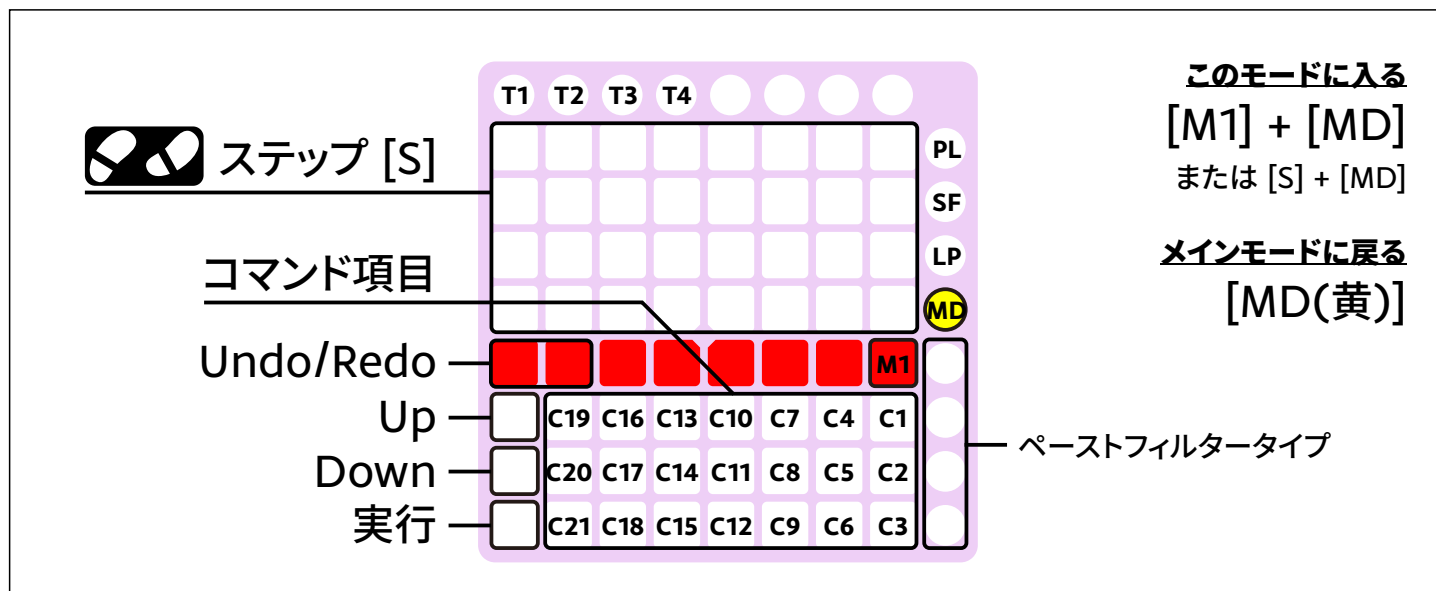
詳細は「4.4. ステップの長さ」の章を参照してください。

3.2. コマンドモード

このモードで何ができる？

- 様々なコマンドによるステップ (シーケンスデータ) の編集

パッド配置



コマンド項目リスト

クリップボード

注)「リップル」コマンドについては、次の節を参照してください。

[C1] : コピー <CP>

ステップデータがクリップボードにコピーされます。

[C2] : カット <CT>

[C5] : リップルカット <RC>

ステップデータが削除されます。さらに、それらがクリップボードにコピーされます。

[C3] : 削除 <DL>

[C6] : リップル削除 <RD>

ステップデータが削除されます。

[C4] : ペースト <PS>

[C7] : リップルペースト <RP>

ステップ情報がクリップボードからペーストされます。

ペーストされるステップが、コピー/カットされたステップよりも長い場合、ステップは繰り返されます。

[C9] : リップル挿入 <RI>

空のステップが挿入されます。

トランスポーズ(移調)

[C10] : トランスポーズ <TP>

ノートピッチが半音単位で上下します。

[C11] : トランスポーズ(オクターブ) <TO>

ノートピッチがオクターブ単位で上下します。

[C12] : トランスポーズ(サークル) <TC>

ノートピッチを、トランスポーズ用のサークル表示を使って上下させます。

再配列

[C13] : 反転 <RV>

ステップの順番が反転します。

例) 1,2,3,4 -> 4,3,2,1

注) 長いノートが不完全に選択されている場合、予期しない結果になることがあります。

[C14] : 回転 <RT>

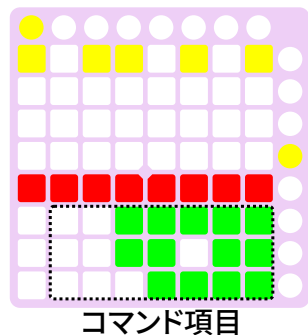
ステップの順番が1ステップずつ回転します。

例) 1,2,3,4 -> 2,3,4,1

操作

コマンド項目の割り当てを確認

1. 初期状態。



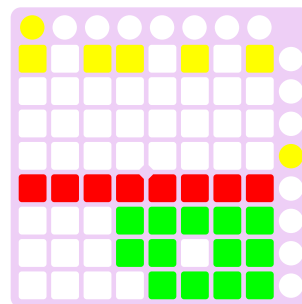
2. コマンドを選択。



<CP> (CoPy)

選択されたコマンド項目が2文字で表示されます。

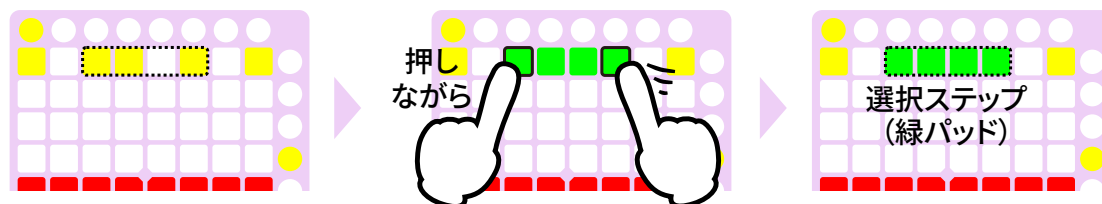
3. 何も起こりません。



...選択されているステップがないので

実際にコマンドを実行

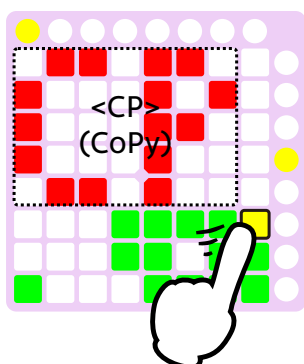
1. 最初に、編集したいステップを選択します。



ワンショット
コマンド

[C1] - [C7]
[C9] [C13]

2. コマンドを選択。



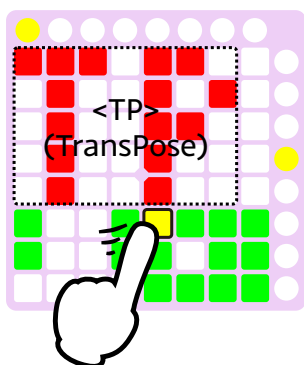
3. コマンドを実行。



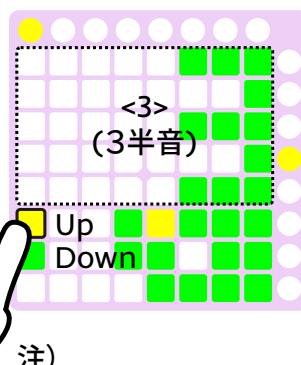
Up/Down
コマンド

[C10] [C11]
[C14]

2. コマンドを選択。



3. 値を変更。



4. コマンドを終了。

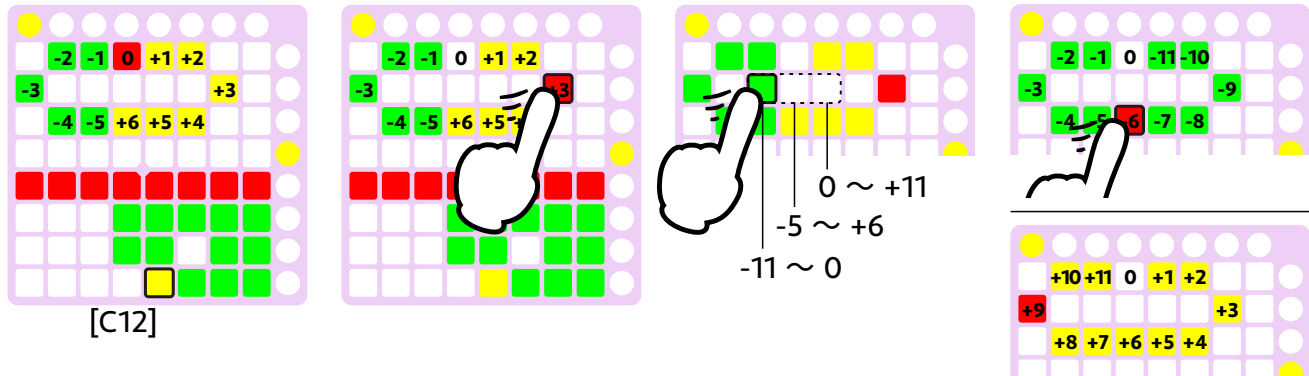


注)

選択ステップの中に対象となるノートがない場合、トランスポーズコマンドは機能しません。

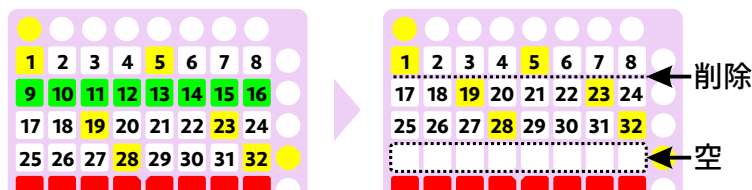
[C12]: トランスポーズ(サークル)

1. トランスポーズ値のサークルが現れます。
2. トランスポーズ値を直接選択。
3. 範囲を選択。
4. 新しい範囲は次の操作時に反映されます。

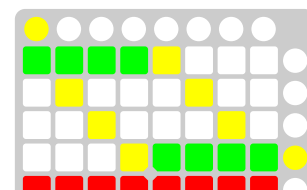
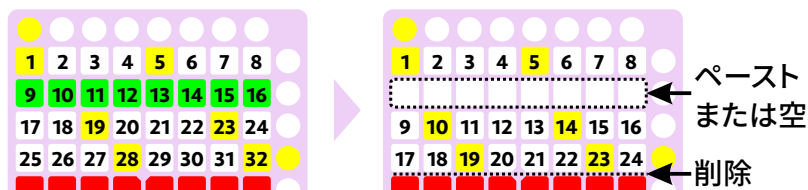


リップルコマンド

[C5]: リップルカット, [C6]: リップル削除



[C7]: リップルペースト, [C9]: リップル挿入

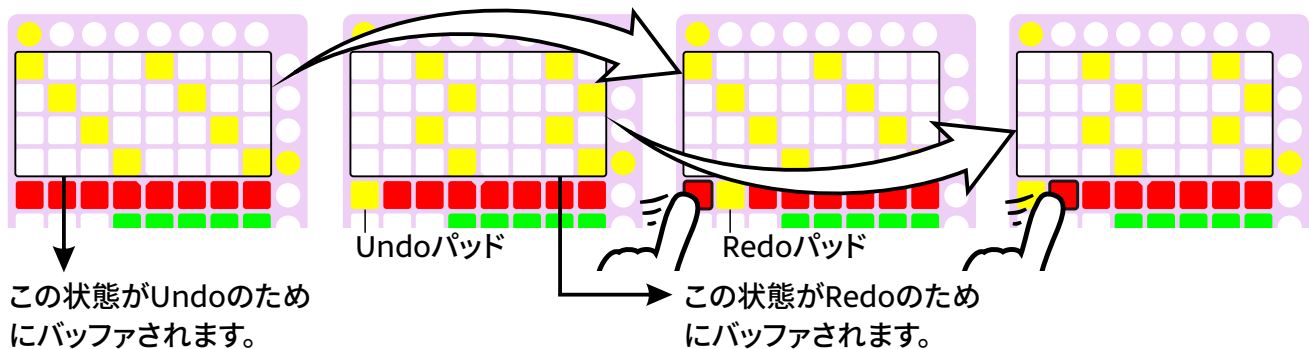


注)
選択ステップが最後のステップをまたぐ場合、リップルコマンドは機能しません。

Undo / Redo

この機能により、コマンドモードで行った変更を元に戻すことができます。

1. コマンドモードに入る。
2. あるコマンドを実行。
3. Undoパッドを押して元に戻す。
4. Redoパッドを押して元に戻す。



注) Undo/Redoはすべてのトラックに影響します。

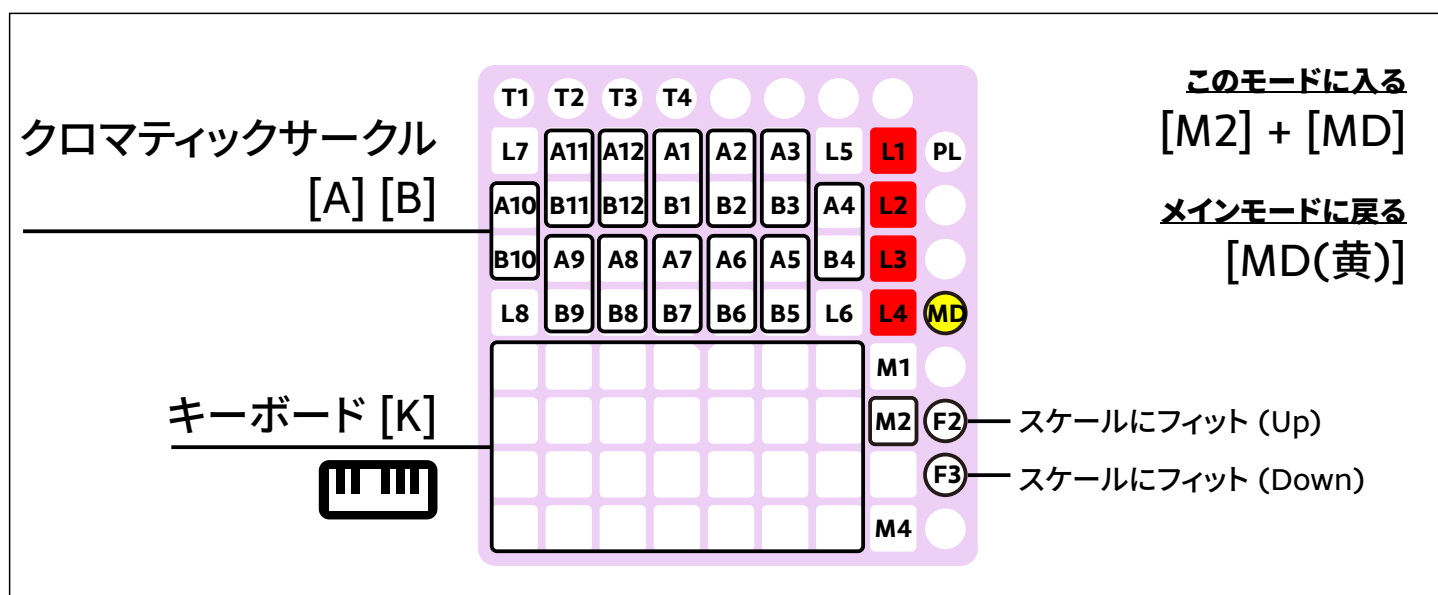
3.3. スケールモード

このモードで何ができる？

- キーボードパッド上に現れるスケールの取扱い（あなた独自のスケールの組み立て）

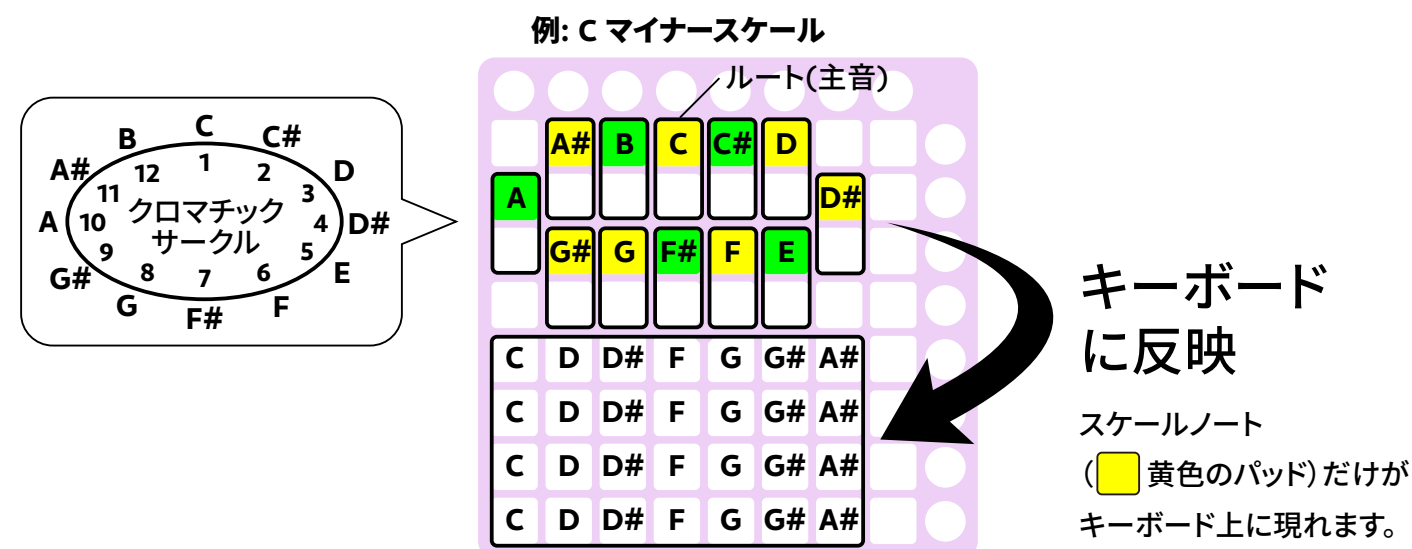
もしプリセットスケールの中からスケールを選択するだけなら、プロパティモードからでも可能です。
基本的には、このモードでの操作はスケール設定にだけ影響し、シーケンスデータには影響しません。

パッド配置



クロマティックサークル

オクターブの12音からなるクロマチックサークルは、スケールがどの音から構成されているかを示します。



スケール設定

設定メニュー

L1 ←→ L1 スケール選択

L3 ←→ L3 ルート(主音) 選択

L4 ←→ L4 ルート(主音) 選択と全体トランスポーズ (トグル)

[L1] : スケール選択 (これは、プロパティモードからでもできます。)

1.

2.

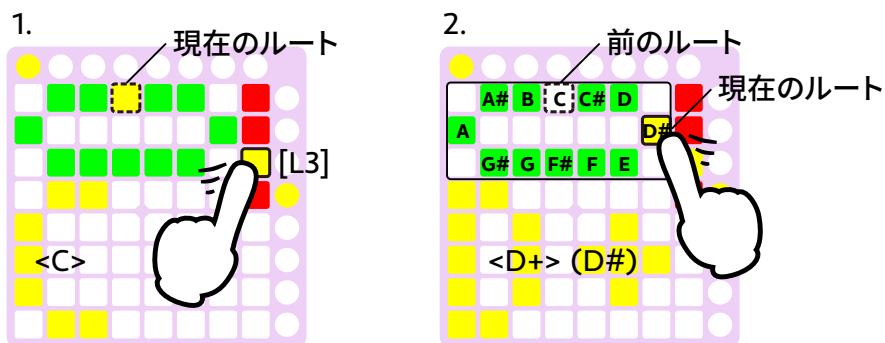
[L7] : 次のスケール
[B10] : 前のスケール
以下のリストから選択

キーボードは隠れていますが、音を出すことができます。

スケールリスト

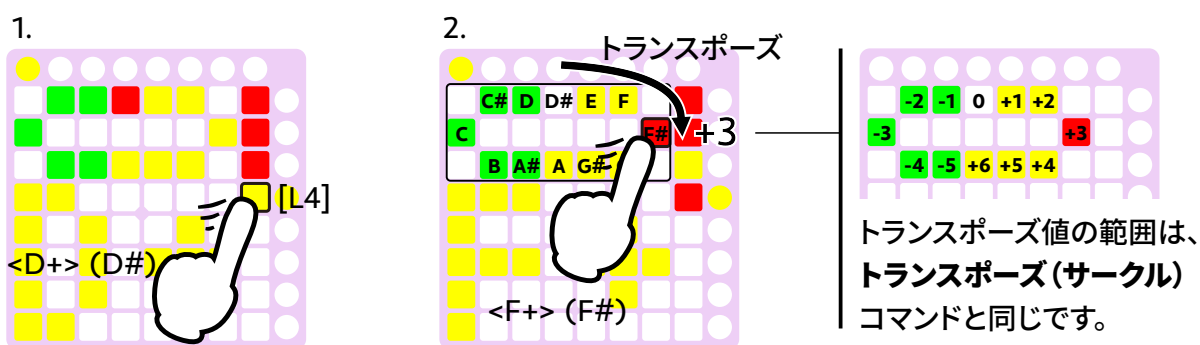
分類		スケール名	= : スケールノート オクターブ内のノート
プリセット スケール	<CR>	Chromatic	= = = = =
	<MJ>	Major	= _ = _ = _ = _ =
	<MN>	Minor	= _ = _ = _ = _ =
	<HM>	Harmonic Minor	= _ = _ = _ = _ =
	<MP>	Major Pentatonic	= _ = _ = _ = _ =
	<NP>	Minor Pentatonic	= _ = _ = _ = _ =
	<BL>	Blues	= _ = _ = _ = _ =
	<JP>	Japanese	= _ = _ = _ = _ =
	<FG>	Freygish	= _ = _ = _ = _ =
	<GS>	Gypsy	= _ = _ = _ = _ =
	<FM>	Flamenco	= _ = _ = _ = _ =
	<AT>	Altered	= _ = _ = _ = _ =
	<WL>	Whole Tone	= _ = _ = _ = _ =
	<HW>	Half-Whole Diminished	= _ = _ = _ = _ =
スケール ビルダー	<U1>	ユーザースケール 1 (最大10まで)	あなた次第
	<<>>	スケールビルダーバッファ	

[L3] : ルート(主音) 選択



[L4] : ルート(主音) 選択と全体トランスポーズ

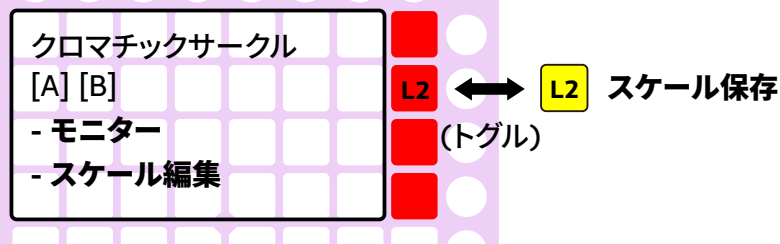
シーケンスデータ全体(全トラック、スナップショットを含む)が、選択されたルートと合うようにトランスポーズ(移調)されます。(よって、この操作はシーケンスデータに影響を及ぼします。)



スケールビルダー

あなた自身のスケールを組み立てることができます。

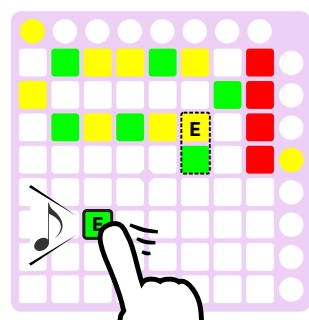
スケールビルダー



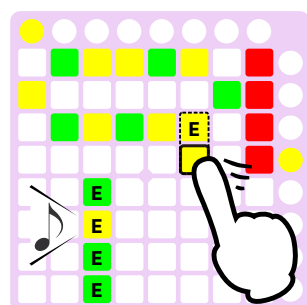
モニター

以下の操作では、対応するパッドが同時に点灯します。

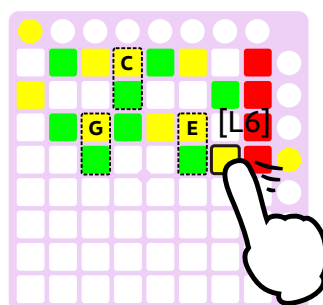
[K] : キーボード演奏



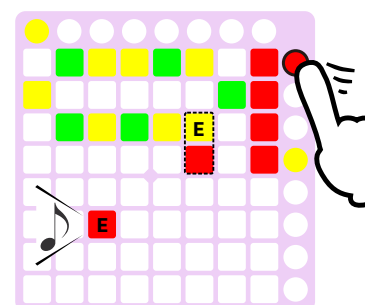
[B] : クロマチックサークル演奏



[L6] : トラックに含まれるノートを表示



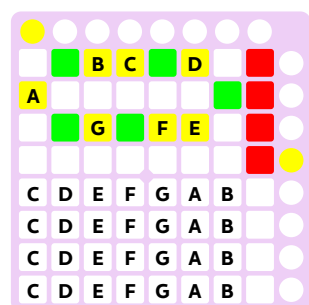
[PL] : シーケンス再生



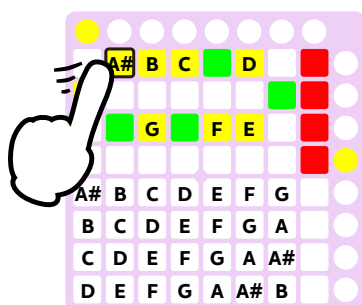
スケール編集

[A] : スケールのノートを追加/削除 (トグル)

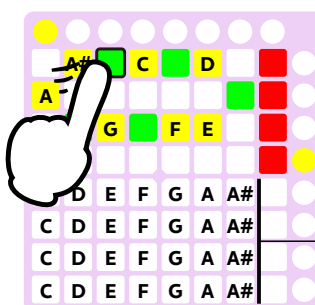
1. 元のスケール。



2. "A#"を追加。



3. "B"を削除。



補足:

ルート(主音) [A1] は削除できません。

キーボードパッドに注目!

現在のスケール

MJ : Major

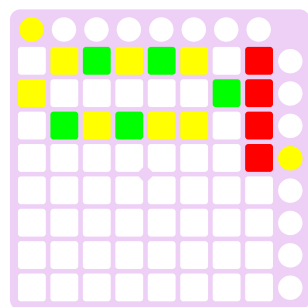
<> : スケールビルダーバッファ

一度元のスケールが編集されると、現在のスケールはスケールビルダーバッファに自動的に切り替わります。(元のスケール自体は編集されません。)

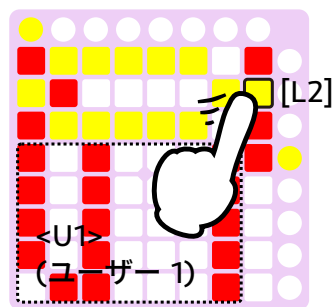
[L2] : スケール保存

編集したスケールは、ユーザースケールのひとつとして保存できます。

1. 編集したスケール。



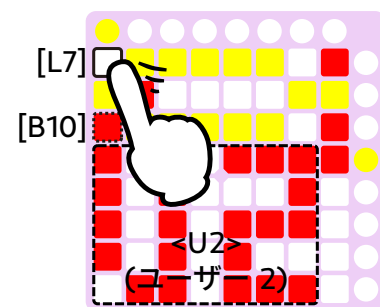
2. [L2] : スケール保存



[L2] は、現在のスケールがスケールビルダーバッファのときだけ使用できます。

<> : スケールビルダーバッファ

3. 保存先を選択。

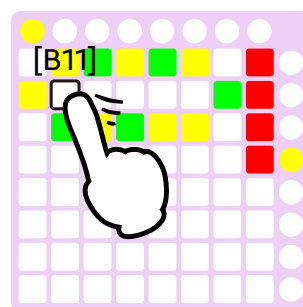


[L7] : 次のスケール
[B10] : 前のスケール
ユーザースケールの中から選択

ユーザースケールの数は、「Preferences -> Scales」で設定できます。

<> : スケールビルダーバッファ

4. [B11] : 保存実行



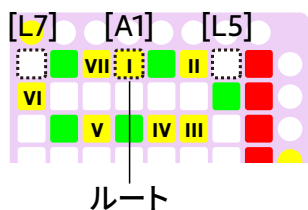
U2 : ユーザースケール 2

スケール編集(回転)

[L5] / [L7] : 右 / 左回転

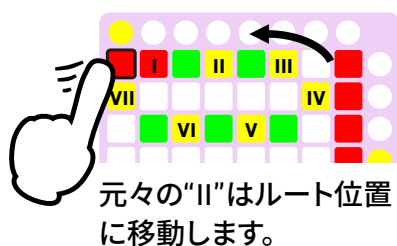
1. メジャースケール。

いわゆる Ionian スケール



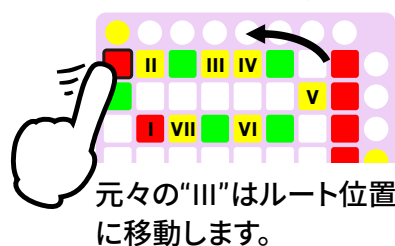
2. 左回転。

いわゆる Dorian スケール



3. もう一度。

いわゆる Phrygian スケール



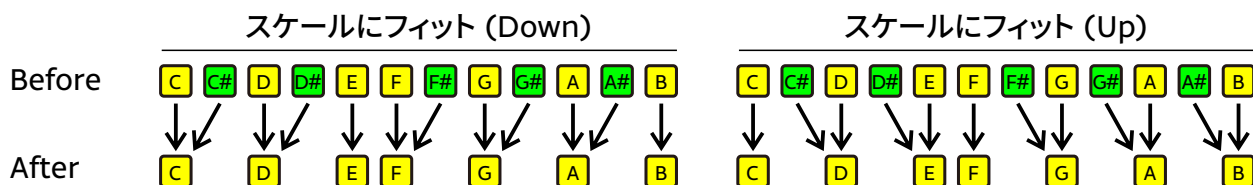
「元々の"I" (ルート)」の目印

- 元々の"I" は、[L5] / [L7] を押ししている間、赤く点灯します。
- 目印をリセットするには、[A1] (現在のルート) を押します。

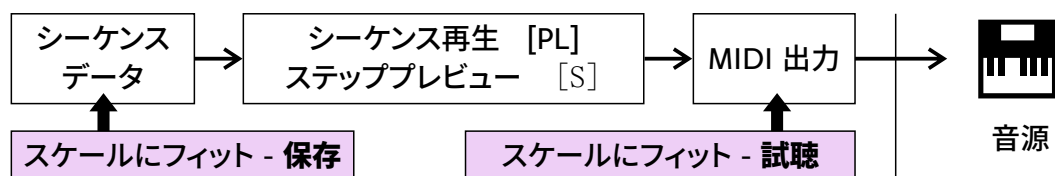
スケールにフィット

この機能で、シーケンスデータをスケールにフィットさせることができます。
スケール外ノートは、以下のように近くのスケールノートにシフトします。

どんな感じに? (Cメジャースケールの場合)



どの段階で?



操作

[F2] : スケールにフィット (Up) - 試聴 (トグル)

[F3] : スケールにフィット (Down) - 試聴 (トグル)

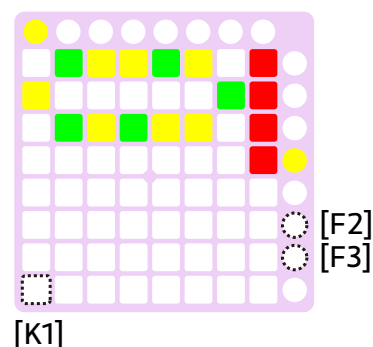
シーケンスデータに影響を与えずに結果を聴くことができます。パッドをもう一度押すと試聴がキャンセルされます。

[F2] + [K1] : スケールにフィット (Up) - 保存

[F3] + [K1] : スケールにフィット (Down) - 保存

結果がシーケンスデータ (全トラック、ただしスナップショットは含まない) に保存されます。

(よって、この操作はシーケンスデータに影響を及ぼします。)



4. シーケンスデータ詳細

4.1. ステッププロパティ

4.2. ロングノート

4.3. ステップステータス

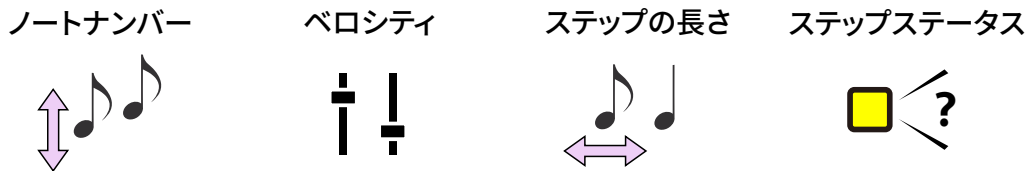
4.4. ステップの長さ

4.5. ペーストフィルタ

4.1. ステッププロパティ

概要

シーケンスデータのほとんどは、各ステップの中に個別に存在しており、それらをまとめてステッププロパティと呼んでいます。



ステップの長さやステップステータスは少し複雑なので、この後で詳細を説明します。

ステッププロパティ一覧

各ステップは最大6つのノートを含みますが、ノートナンバー以外のプロパティは、ステップ内のすべてのノートで共通になります。

ノートナンバー (6ノート分)

範囲: 0 -127, または「なし」 初期値: 「なし」

MIDI仕様でのノートナンバーになります。(つまり音の高さです。)

ノートナンバーは、ステップレコーディング操作によって設定されます。

ベロシティ

範囲: レベル0 - 3 (31, 63, 95, 127 [MIDI データ]) 初期値: レベル2 (95 [MIDI データ])

MIDI仕様でのベロシティになります。(つまり音の強さです。)

ベロシティはプロパティモードで設定します。詳細は「3.1. プロパティモード」の章の「[P3]: ステッププロパティ」の項を参照してください。

ステップの長さ

- **ステップタイム倍率** 範囲: 1 - 8, といくつかの分数 初期値: 1

- **ゲートタイム** 範囲: レベル0 - 3 (25, 50, 75, 100 [%]) 初期値: レベル3 (100 [%])

- スウィング応答

範囲: 長くする, 短くする, 通常 初期値: 長くする (奇数ステップ), 短くする (偶数ステップ)

これらのプロパティによって、ステップの長さや、その中でどのぐらい長く音を鳴らすかが決まります。

詳細は「4.4. ステップの長さ」の章を参照してください。

ステップステータス

- **MUTE/TIE ステータス** 範囲: MUTE, TIE, “ONかOFF” 初期値: “ONかOFF”

- **SKIP ステータス** 範囲: SKIP, SKIP以外 初期値: SKIP以外

PRACQ独自の概念であるステップステータスによって、ステップがどのように再生されるかが決まります。

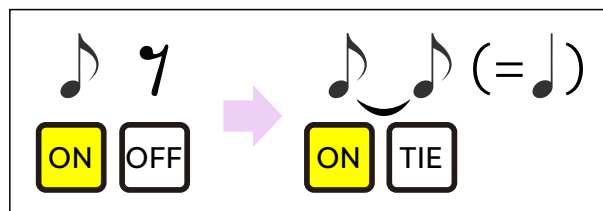
詳細は「4.3. ステップステータス」の章を参照してください。

4.2. ロングノート

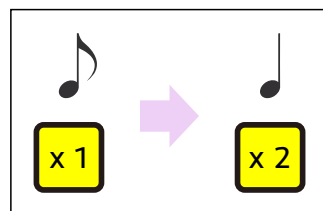
概要

初期設定では、トラック中の各ステップは同じ長さ（プロパティモードの「ステップタイムのベース」）になり、配置したノートも同じ長さになります。より長いノートを配置するには、以下の2つの方法があります。

ステップを連結

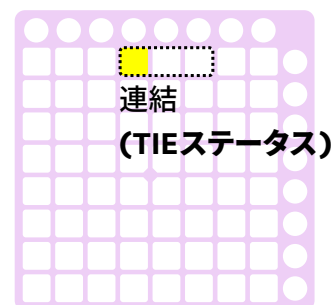
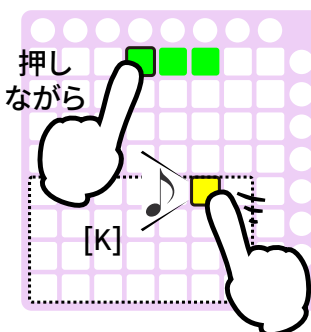
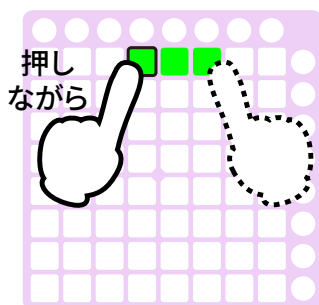
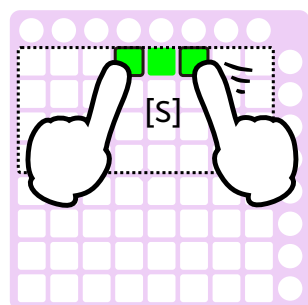


ステップの長さを延長



ステップを連結 (メインモードで)

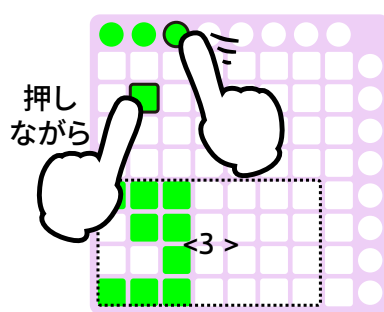
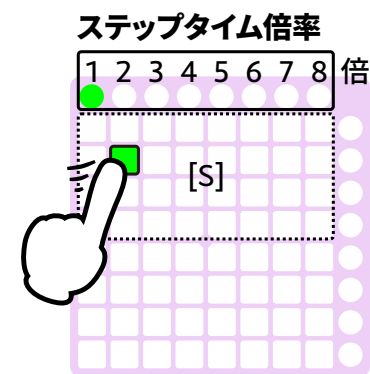
1. 2つの[S]を順に押します。
2. 2番目に押した[S]だけ離します。
3. 最初に押した[S]を押し続けながら[K]を押します。
4. 両方のパッドを離します。



詳細は「4.3. ステップステータス」の章を参照してください。

ステップの長さを延長 (メインモードで)

1. [S]を押すと、ステップタイム倍率が現れます。
2. [S]を押しながら、ステップタイム倍率パッドをひとつ押します。
3. 両方のパッドを離します。



詳細は「4.4. ステップの長さ」の章を参照してください。

4.3. ステップステータス

概要

それぞれのステップは、以下のステータスのうちのひとつの状態をとり、ステータスはステップがどのように再生されるかを決定します。PRACQでは必ずしもステップステータスについて意識する必要はありませんが、知っていれば役に立つはずです。

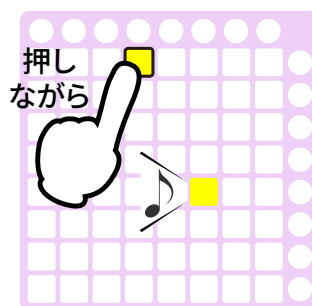
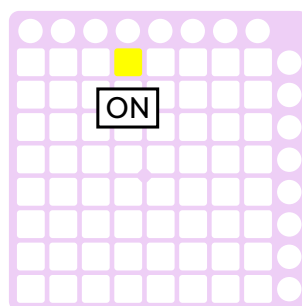
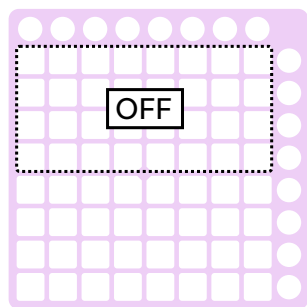


ON/OFFステータス

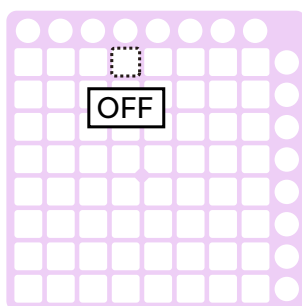
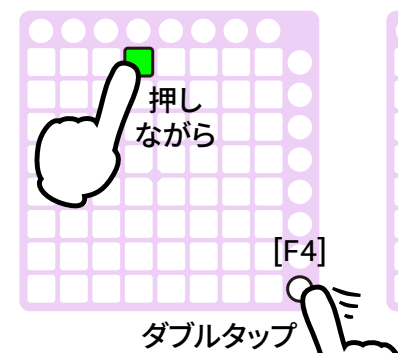
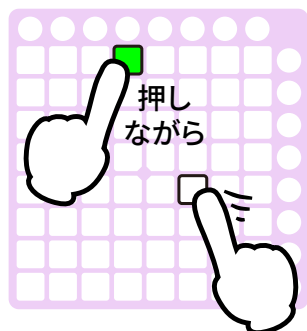
メインモードで

これについては説明の必要はないかもしれませんが...

1. 最初は、全てのステップパッドがOFFステータスです。
2. 前述の方法で、ノートにステップに配置します。
3. このステップパッドは、OFFステータスからONステータスに変わります。
4. このステップパッドを押し続けます。



5. 点灯しているキーボードパッドを押して、ステップからノートを削除します。
- (または[F4]を2回すばやく押します。)
6. このステップパッドは、ONステータスからOFFステータスに変わります。



コマンドモードで

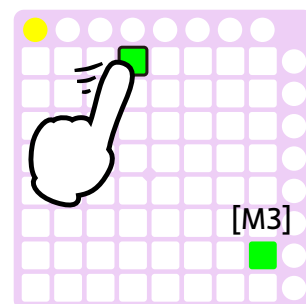
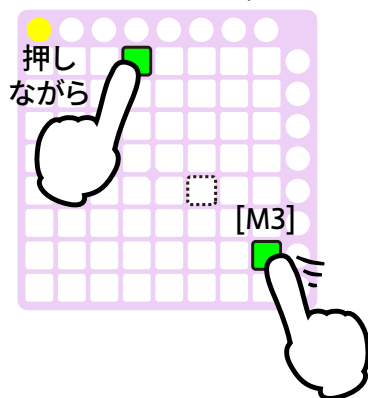
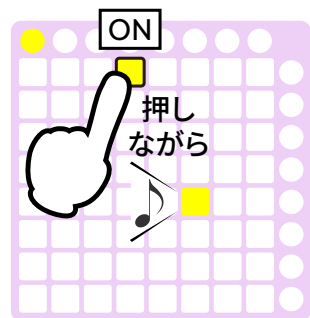
カット/削除コマンドで、ステップはOFFステータスになります。詳細は「3.2. コマンドモード」の章を参照してください。

MUTEステータス

このステータスでは、ステップデータを失うことなく、ステップを一時的にミュート（消音）することができます。

メインモードで

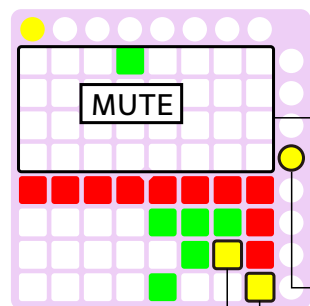
1. ONステータスのステップパッドを押し続けます。
2. [M3]を押してステップパッドをミュートします。（もう一度押すと、キャンセルできます。）
3. このステップパッドは、ONステータスからMUTEステータスに変わります。
4. ステップパッドを押すと、そのステータスをチェックできます。



[M3]が緑になれば、そのステップはMUTEステータスです。

プロパティモードで

1. プロパティモードの「MUTE/TIEステータス」
2. ステップパッドを押して、MUTEからON（またはONからMUTE）に切り替えます。

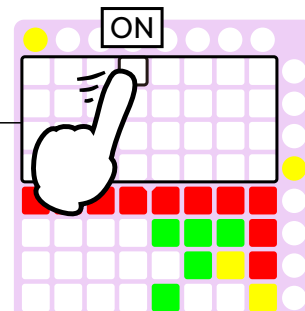


ステップパッド

ON	: □ オフ	OFF	: □ オフ
↕ 切り替え		↕ 切り替え	
MUTE	: ■ 緑	TIE	: ■ 黄

始めに、以下のパッドを順に押します。

1. モードパッド
2. ステップ分類パッド
3. MUTE/TIEステータスパッド

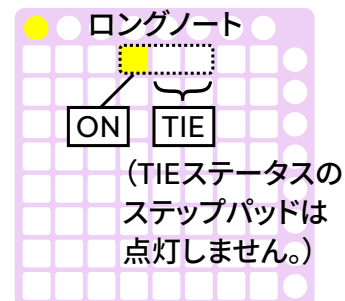
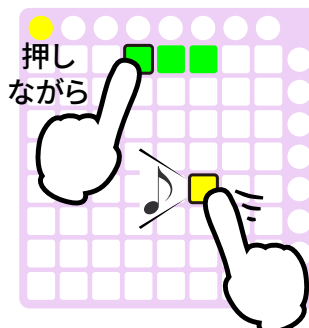
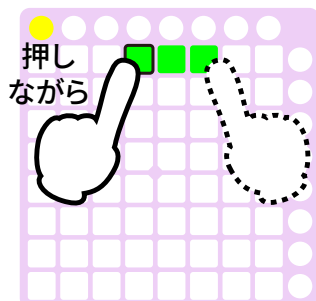


TIEステータス (ロングノート)

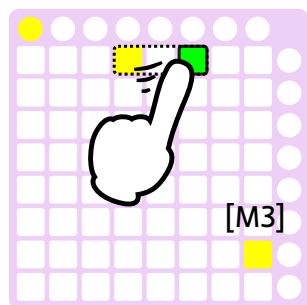
このステータスでは、前のステップのノートを伸ばすことができます。

メインモードで

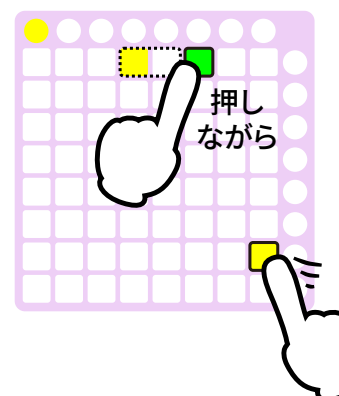
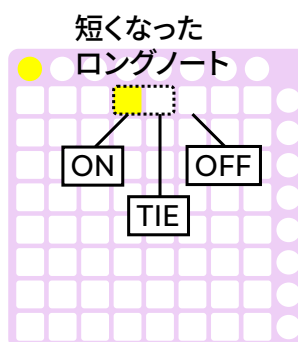
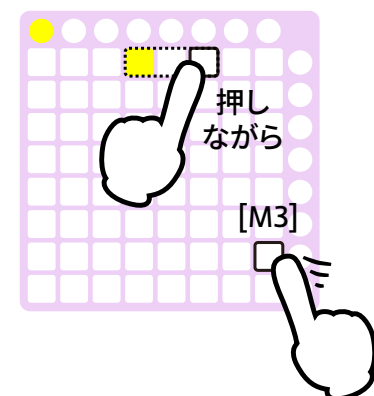
1. 前述の方法で、ステップを選択します。
2. あとで押した方のパッドだけ離します。
3. キーボードパッドを押して、それから両方のパッドを離します。
4. ロングノートが配置されました。



5. ロングノートの最後のステップを押すと、そのステータスをチェックできます。
6. ロングノートの最後のステップを押しながら、[M3]を押します。
7. このロングノートは、短くなりました。
8. 逆に、長くすることもできます。

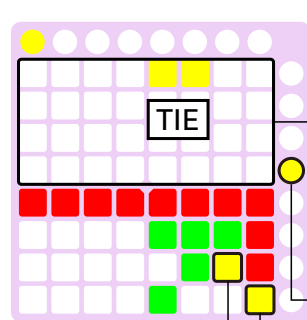


[M3]が黄色になれば、そのステップはTIEステータスです。



プロパティモードで

1. プロパティモードの「MUTE/TIEステータス」
2. ステップパッドを押して、TIEからOFF (またはOFFからTIE) に切り替えます。

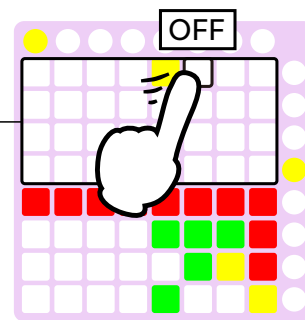


ステップパッド

ON	: □ オフ	OFF	: □ オフ
↑ ↓	切り替え	↑ ↓	切り替え
MUTE	: ■ 緑	TIE	: ■ 黄

始めに、以下のパッドを順に押します。

1. モードパッド
2. ステップ分類パッド
3. MUTE/TIEステータスパッド

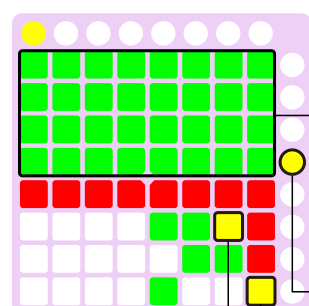


SKIPステータス

このステータスでは、再生中にステップをスキップすることができます。

プロパティモードで

1. プロパティモードの「SKIPステータス」



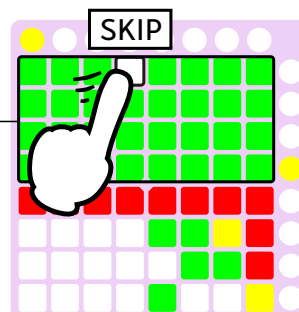
ステップパッド

ON : 黄
OFF/MUTE/TIE : 緑
⇕ 切り替え
SKIP : □ オフ

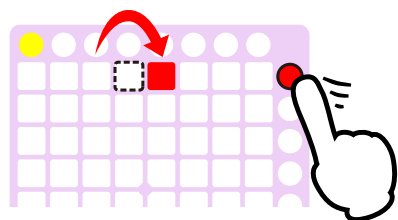
始めに、以下のパッドを順に押します。

1. モードパッド
2. ステップ分類パッド
3. SKIPステータスパッド

2. ステップパッドを押して、SKIP以外からSKIP (またはSKIPからSKIP以外) に切り替えます。



3. SKIPステータスのステップは、再生中にスキップされます。



ステータスリスト

ステータス	メインモードでのインジケータ		説明
OFF	-		ノートは再生されません。
TIE	[M3]	黄 : ステッププレビューで 赤 : シーケンス再生で	もし、ひとつ前 (左側) のステップのノートが再生されている場合は、そのノートはこのステップまで伸ばされます。それ以外の場合は、ノートは再生されません。
ON	[S]	黄 : 常に	このステップにあるノートは再生されます。
	[K]	黄 : ステッププレビューで 赤 : シーケンス再生で	
MUTE	[M3]	緑 : ステッププレビューで	ノートは再生されません。(このステップがノートを含んでいたとしても)
SKIP	-		このステップはシーケンス再生中にスキップされます。

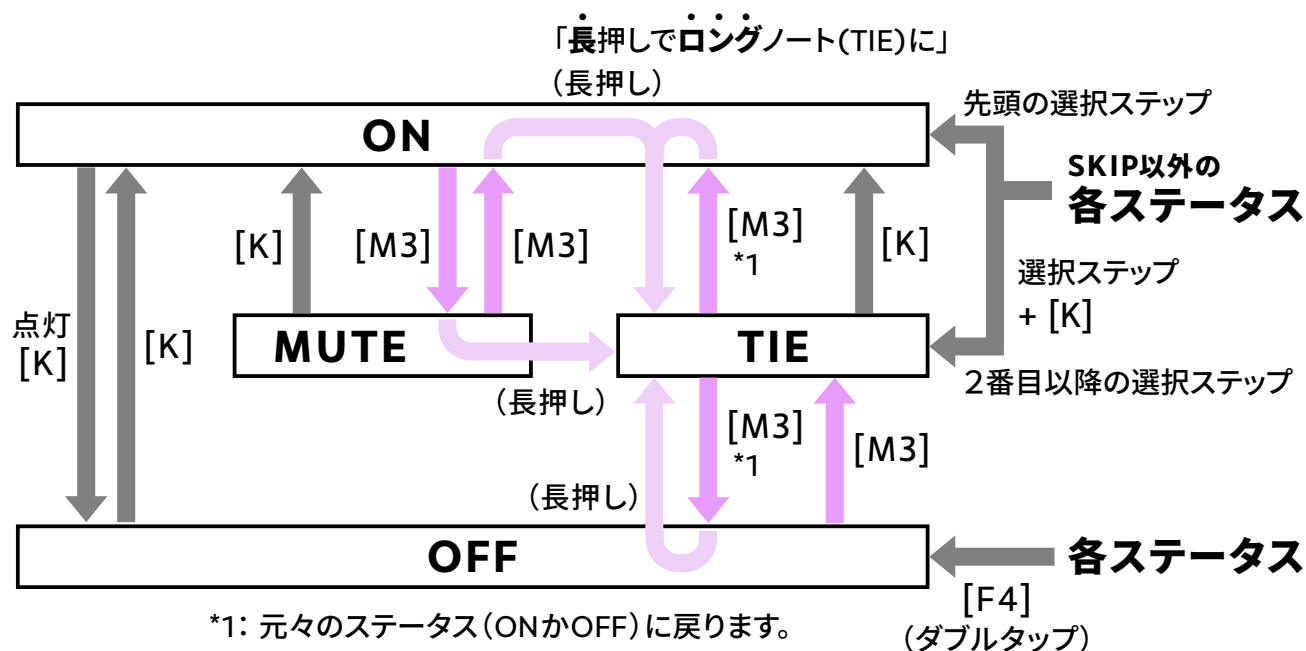
[S](ステップパッド)に現れるステップステータス

ステップ パッドの色	メインモード	プロパティモード - MUTE/TIE	プロパティモード ステップ - SKIPステータス
□ オフ	OFF/MUTE/TIE/SKIPステータス	ON/OFF/SKIPステータス	SKIPステータス
■ 緑	選択ステップ	MUTEステータス	OFF/MUTE/TIEステータス
■ 黄	ONステータス	TIEステータス	ONステータス
■ 赤	再生位置		

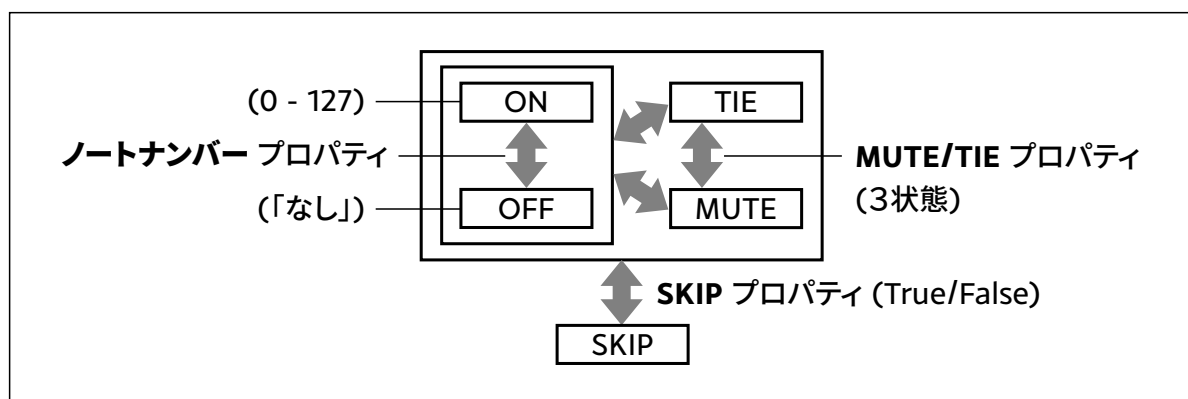
ステータス遷移

[S] + [?] : ステータス切替

対象のステップパッドを押しながら、以下のパッド ([K], [M3], [F4]) を押して下さい。



実際のデータ構造

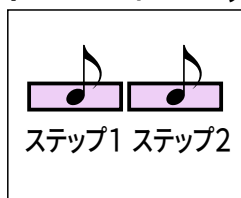


4.4. ステップの長さ

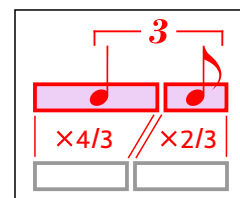
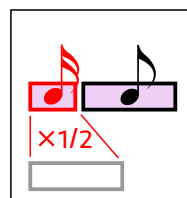
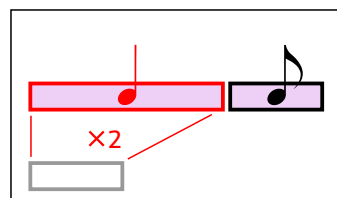
概要

各ステップはそれぞれ自身の長さを持つことができます(「3.1. ロングノート」で少し触れましたが)。時間(水平)軸に関してはいくつかの編集方法があり、以下のような効果を表示することができます。

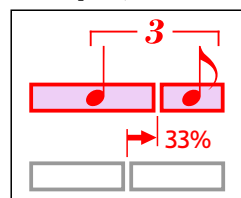
ステップタイムのベース (プロパティモード)



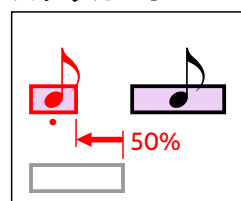
ステップタイム倍率



スウィング



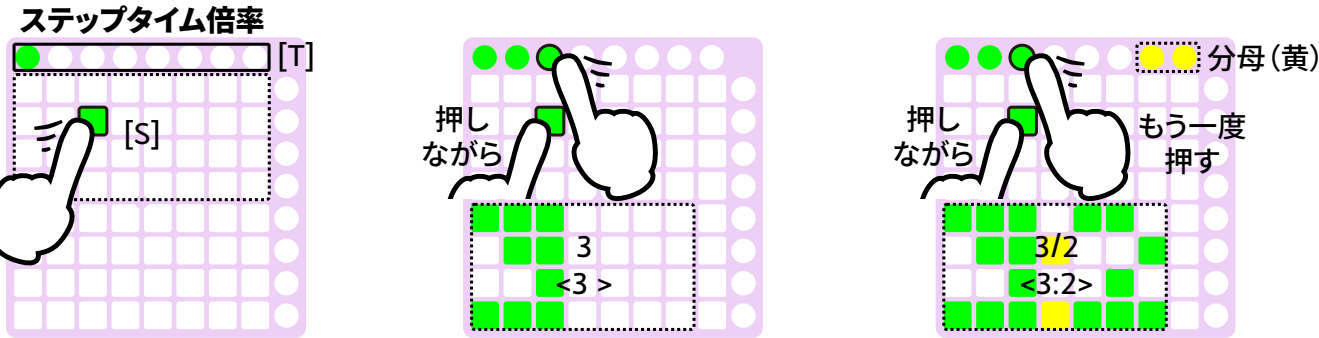
スタッカート



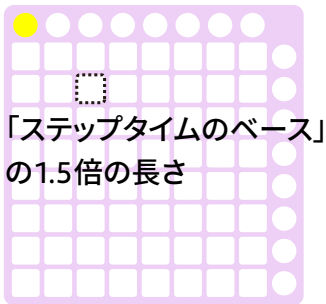
ステップタイム倍率

メインモード [S] + [T]: ステップタイム倍率

1. [S]を押すと、ステップタイム倍率が現れます。
2. [S]を押しながら、ステップタイム倍率パッドのひとつを押します。
3. [S]を押し続けながら、同じステップタイム倍率パッドをもう一度押します。



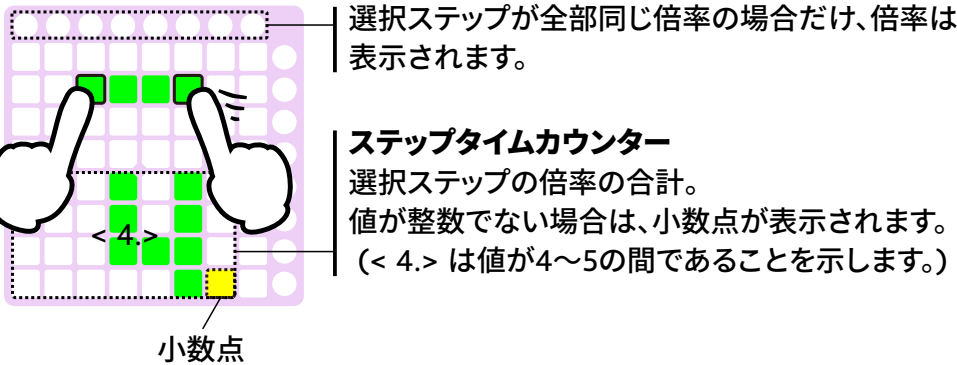
4. 両方のパッドを離します。



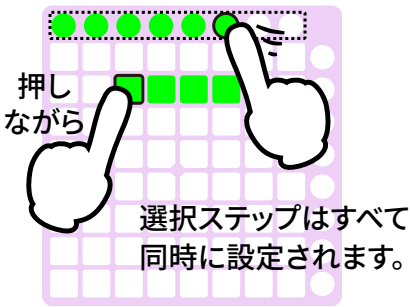
倍率の一覧

[T] パッド	倍率	数回押すと…
1	<1>	1/2 <1:2>
2	<2>	1/3 <1:3>
3	<3>	1/4 <1:4>
4	<4>	2/3 <2:3>
5	<5>	3/2 <3:2>
6	<6>	3/4 <3:4>
7	<7>	
8	<8>	4/3 <4:3>

5. ステップを選択すると…



6. 倍率を選択します。

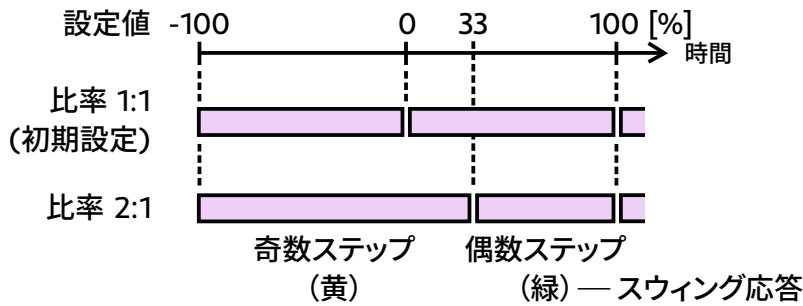


スウィング

スウィングは、「スウィング値」と「スウィング応答」の2つの項目で処理されます。

プロパティモード - トラックプロパティ [P10] : スウィング値

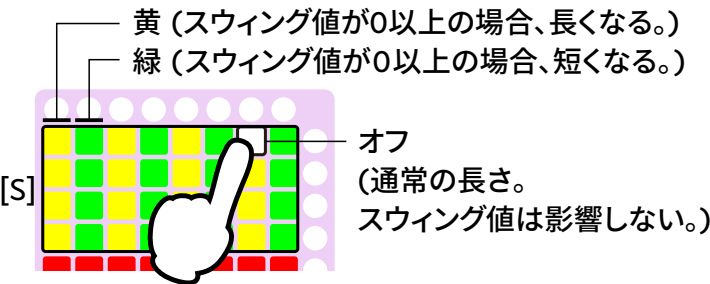
奇数と偶数のステップの境界を、以下のように設定します。
値の設定方法については「3.1. プロパティモード」の章の「操作」の項を参照してください。



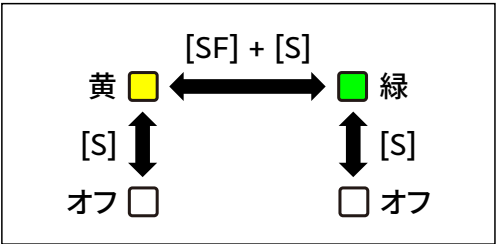
- 設定値は2または3ずつ増減します。
- 「100 [%]」を設定すると、奇数ステップの長さは倍になり、偶数ステップは消滅します(スキップされます)。

プロパティモード - ステッププロパティ [P10] : スウィング応答

各ステップはそれぞれ個別に、スウィングの効果が無効にすることができます。さらに、シフトパッド[SF]を使ってパッドの色(黄/緑)を切り替えることもできます。



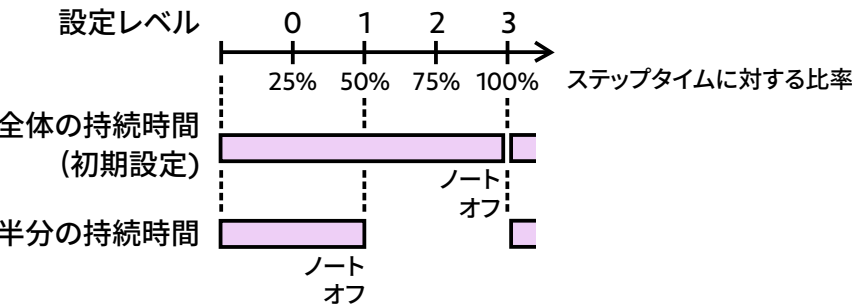
操作



スタックカート

プロパティモード - ステッププロパティ [P10] : ゲートタイム(スタックカート)

持続時間を以下のようにレベル(0~3)で設定します。
レベルの設定方法については「3.1. プロパティモード」の章の「操作」の項を参照してください。



5. 応用機能

5.1. ファンクションパッド

5.2. スナップショット

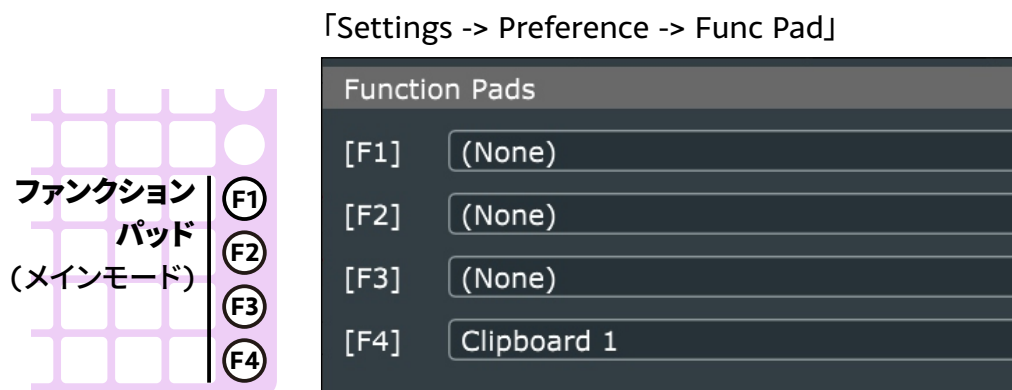
5.1. ファンクションパッド

概要

PRACQにはメインモードで利用できる様々なオプションの機能があります。これらの機能はファンクションパッドから実行します。

設定

それぞれのファンクションパッドに機能を割り当てます。



ファンクションパッド項目リスト

Clipboard 1～4 (クリップボード)

初期設定では、Clipboard 1はあらかじめ[F4]に割り当てられています。
詳細は、「2.2. 基本操作」の章の「ステップのコピー・カット・ペースト (クリップボード)」の項を参照してください。なお、Clipboard 1はコマンドモードとメモリを共有しており、Clipboard 2～4はそれぞれ独自のメモリを持っています。

Alt. Step Pad (Proceed / Stay) (代理ステップパッド (前進 / 移動なし))

これらは、最後に点滅していたステップパッドと同じ働きをします。
「前進」パッドを連続して押すと、点滅するステップパッドが前進します。

Snapshot (スナップショット)

スナップショットビューを、オン / オフします。
スナップショットは、パターンのための一時的なメモリです。詳細は「5.2. スナップショット」の章を参照して下さい。

Song Mute (ソングミュート)

「ノートオン」メッセージを抑制します。

Panic ! (パニック!)

「オールサウンドオフ」メッセージを発行します。

Fit to Scale (Up/Down) (スケールにフィット (Up/Down))

詳細は、「3.3. スケールモード」の章の「スケールにフィット」の項を参照してください。

Cmd: *** (コマンド:***)

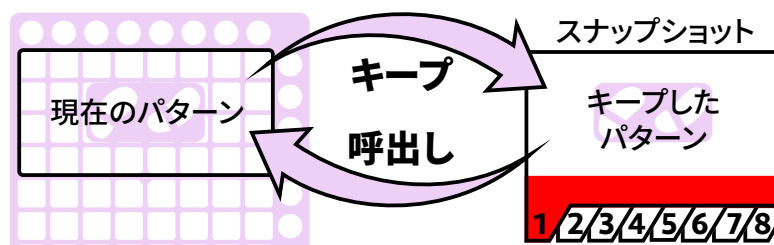
コマンド項目のいくつかは、ここでも使用可能です。コマンド項目については「3.2. コマンドモード」の章を参照してください。

5.2. スナップショット

概要

スナップショットはパターン(シーケンスデータ)のための一時的なメモリです。最大8つまでのパターンをキープして、それらをすぐに呼び出すことができます。

スナップショットビューは、前述のファンクションパッドによって表示されます。



パッド配置 (メインモードでのスナップショットビュー)

スロット呼出し

8つのスロットから呼び出した
いひとつを選択します。

☒ 赤 : 呼出しスロット
☐ オフ : 呼出しスロット以外

スロットキープ

キープしたいスロットを選択しま
す。

☒ 黄 : キープされようとしている
☐ オフ : 空か、削除されようとし
ている

スナップショットは、
各トラック個別に機能します。

パターン
(シーケンスデータ)

スナップショット
スロット 1 - 8

スロット 1: 現在のパターン
スロット 2: 最新のスナップショット
⋮
スロット 8: 一番古いスナップショット

このビューに入る
「Snapshot」が
割り当てられている[F]

このビューを抜ける
[F] または [MD(黄)]

ファンクションパッド [F]

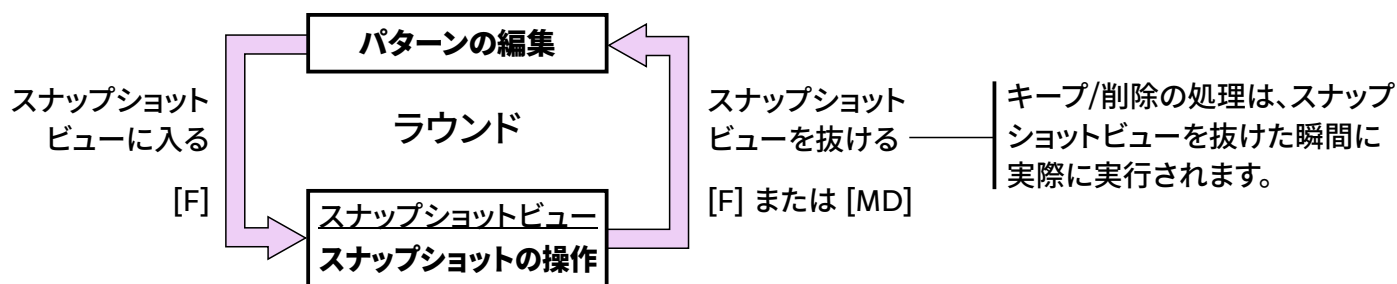
始めに、スナップショットビューを
オン/オフするため、ファンクション
パッドのひとつに「Snapshot」を
割り当ててください。

Sequencer

Snapshot

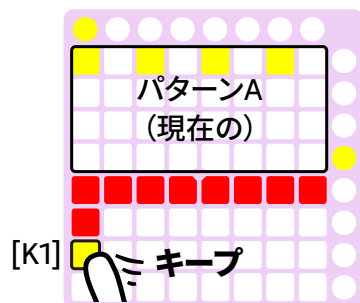
操作

スナップショットを活用するには、以下のラウンド（一連の操作）を繰り返します。



1. 最初のラウンド

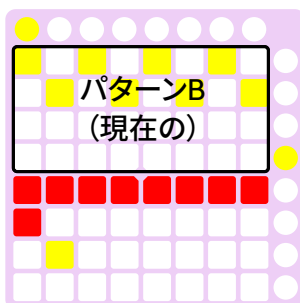
点減している[K1]を押して、現在のパターンをスナップショットにキープします。



キープされようとしている

2. 次のラウンド

パターンA（前回キープした）は右側に積み重ねられ、スロット2にあります。



積み重ねられた

そして

呼び出すには[R2]を押します。



呼び出された

3. しばらく後

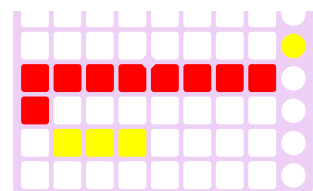
スロット3にあるパターンをスナップショットから削除するには、[C3]を押します。



削除されようとしている

4. 次のラウンド

残っているスナップショットは左側に詰められます。また、右側にあふれ出たスナップショットは自動的に削除されるので注意してください。



左側に詰められた

パターンCは削除された

自動的に削除されます

6. オプション設定

6.1. 外部キーボード

6.2. 汎用コントローラ

6.3. 外部シーケンサとの同期

6.1. 外部キーボード

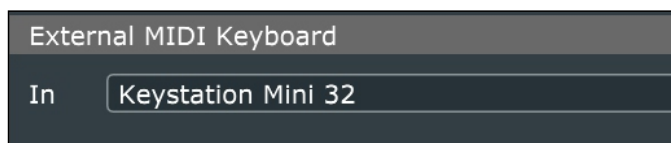
概要

もし28鍵キーボードに満足できない場合は、代わりにMIDIキーボードを使うこともできます。



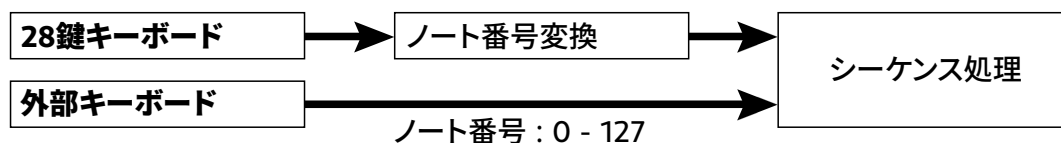
設定

MIDIキーボードをパソコンに接続し、そのデバイスを「Setting -> Device Selection -> External MIDI Keyboard」から選択します。



操作

28鍵キーボードの代わりにMIDIキーボードをそのまま使ってください。
ノート番号はシーケンス処理に直接送られます。



注：ピッチベンドなどの速い連続データの送信は避けてください。そのようなデータを送信するデバイスはPRACQから切断されます。

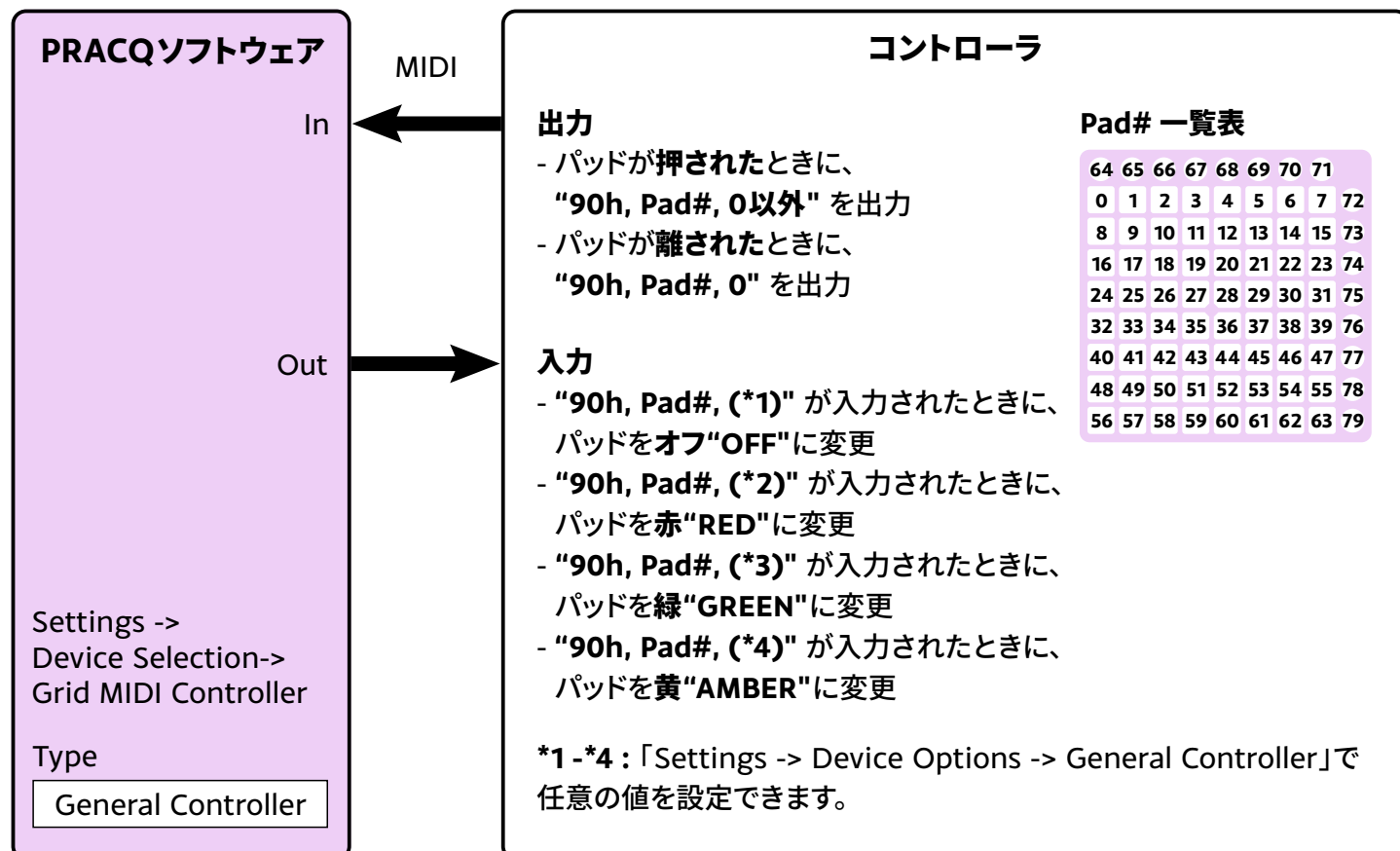
6.2. 汎用コントローラ

概要

要件を満たすコントローラであれば、Novation LaunchpadのかわりにPRACQのコントローラとして使用することができます。

コントローラ要件

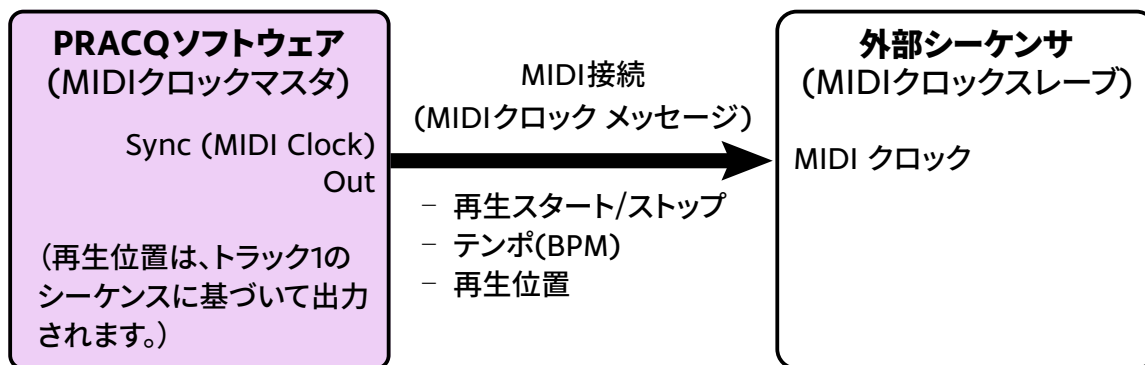
コントローラは、MIDIメッセージに関して以下のように動作する80個のパッドが必要です。



6.3. 外部シーケンサとの同期

概要

PRACQはMIDIクロックマスタとして機能します。よって、外部のシーケンサをPRACQのトランスポート(スタート/ストップなど)に追従させることができます。

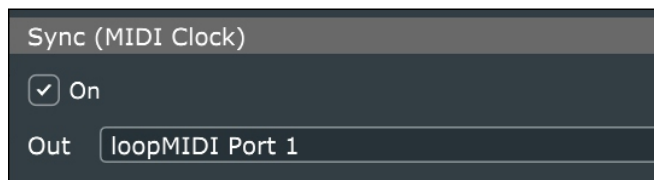


設定

設定は、PRACQソフトウェアと外部シーケンサの両方で必要です。

PRACQソフトウェア

1. 「Settings -> Device Selection -> Sync (MIDI Clock) -> On」チェックボックスをオン(有効)にして下さい。
2. 外部のシーケンサと接続しているMIDIデバイスを「Sync (MIDI Clock) Out」メニューから選択して下さい。デバイスが何も選択されていない場合は、「MIDI Playback Out」のデバイスが「Sync (MIDI Clock) Out」としても使用されます。



外部シーケンサ

外部シーケンサをMIDIクロックスレーブとして設定します。例を以下に示します。

注：
あいにく、MIDIクロックスレーブとして適切に機能するシーケンサソフトはそれほど多くはないようです。
またこの項の内容は、古くなっている可能性があります。

Ableton Live / Live Lite

1. オプションメニュー -> 環境設定 -> MIDI で、Launchpadがコントロールサーフェスとして使われていない状態にします。



2. 同じタブで



3. コントロールバー

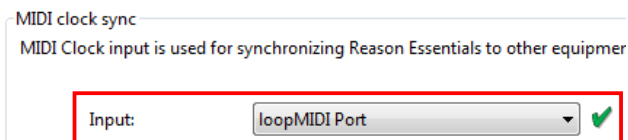


Native Instruments Maschine

1. Fileメニュー -> Audio and MIDI Settings -> MIDI -> Inputsで、MIDIクロック入力用のデバイスをONにします。
2. Fileメニュー -> Sync to External MIDI Clock

Propellerhead Reason / Reason Essentials

1. 編集メニュー -> 環境設定 -> 同期



2. Optionsメニュー -> 同期-> MIDIクロック

補足

もしタイミングのずれがある場合は、ソングプロパティ「ステップオフセット」で調整してみてください。